

小城市 経済動向調査

～RESASデータから見る現状と展望～

令和7年12月20日
小城市商工会

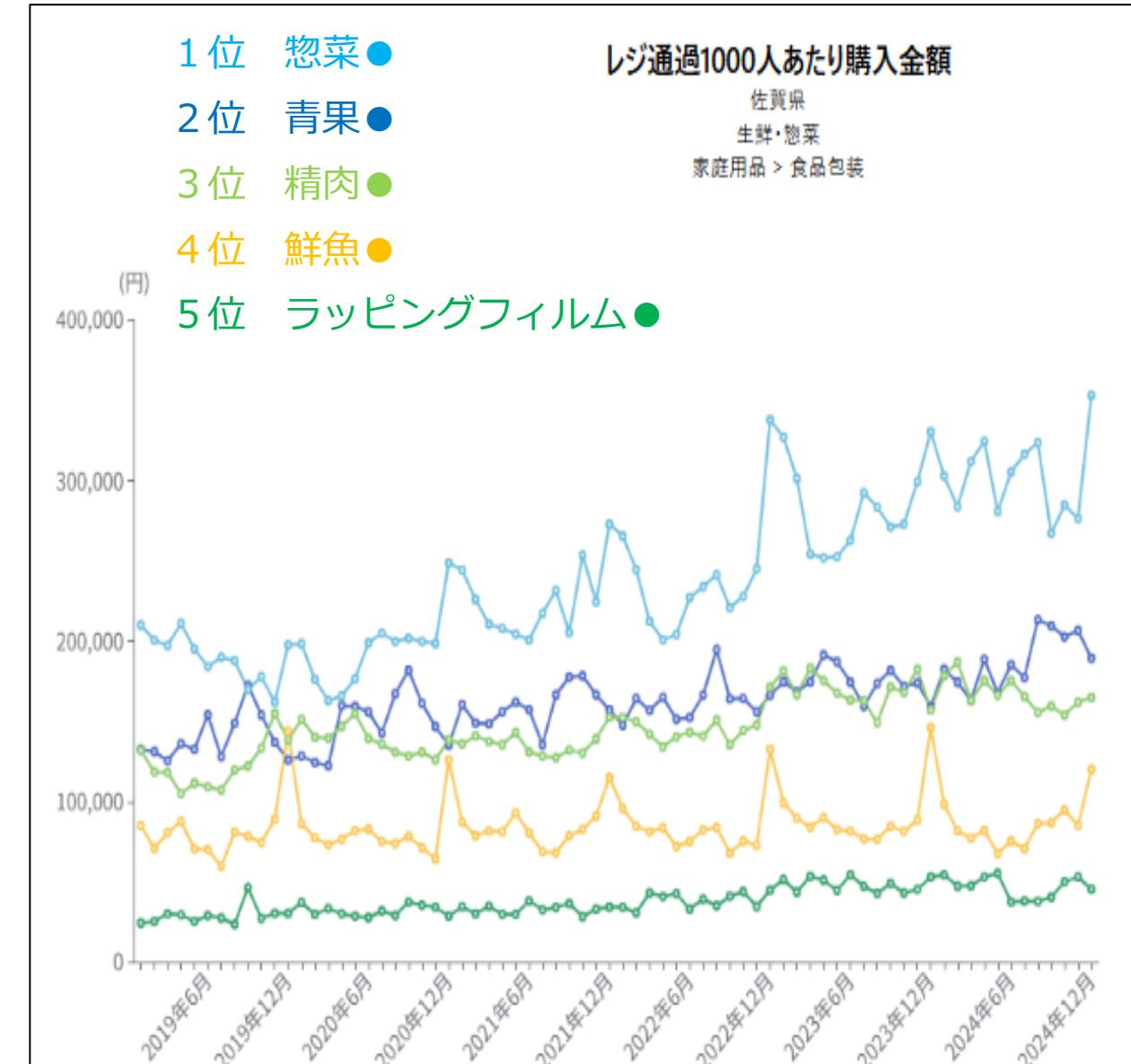
調査目的

当地域の小規模事業者が、生産性の高い産業や人の動きなど、国が提供するビッグデータを活用することで効率的な資源の集中や事業計画に反映させることを目的とする。

1.マーケティングマップについて

・生活用品消費分析

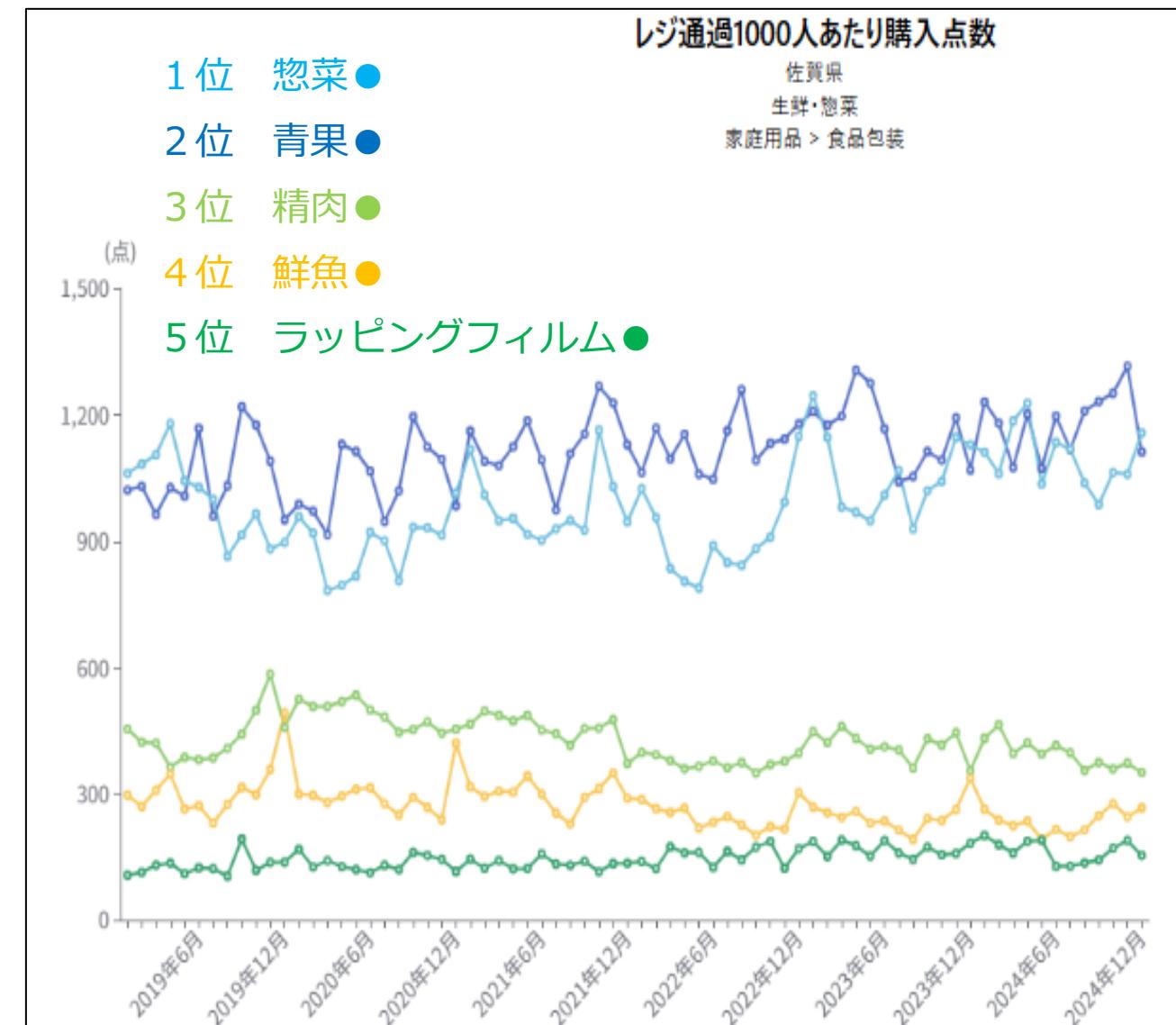
佐賀県でのレジ通過1000人あたり購入金額を見ると惣菜が大きく上昇。



1.マーケティングマップについて

・生活用品消費分析

佐賀県でのレジ通過 1 0 0 0 人あたり購入点数を見ると惣菜は増加傾向であるものの、精肉、鮮魚は減少傾向。



1.マーケティングマップについて

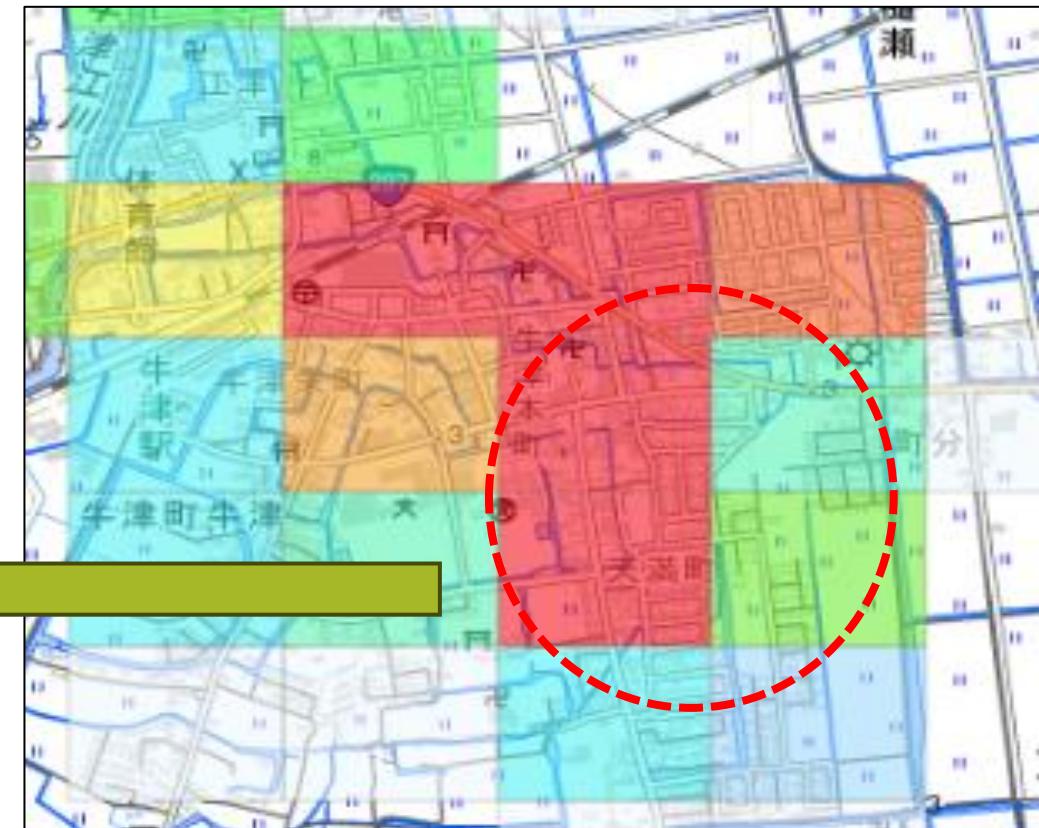
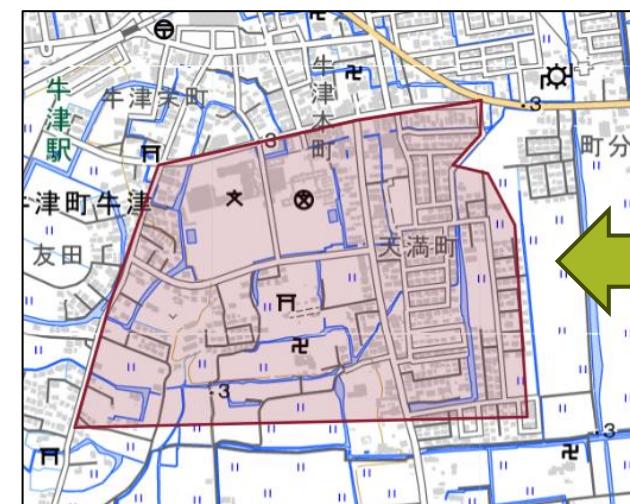
・滞留人口メッシュ分析

※滞留人口とは

ある地点に15分以上滞留している人の1時間あたりの平均人数

対象区域：牛津町天満町

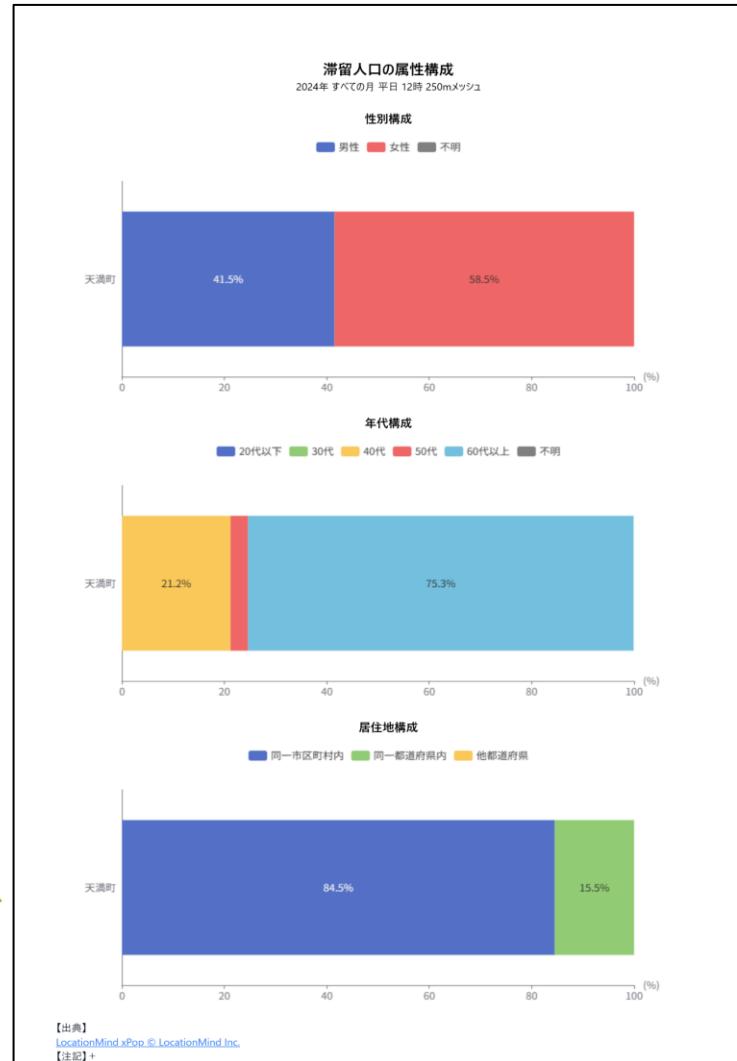
時間帯：平日の昼間と平日夜間を比較



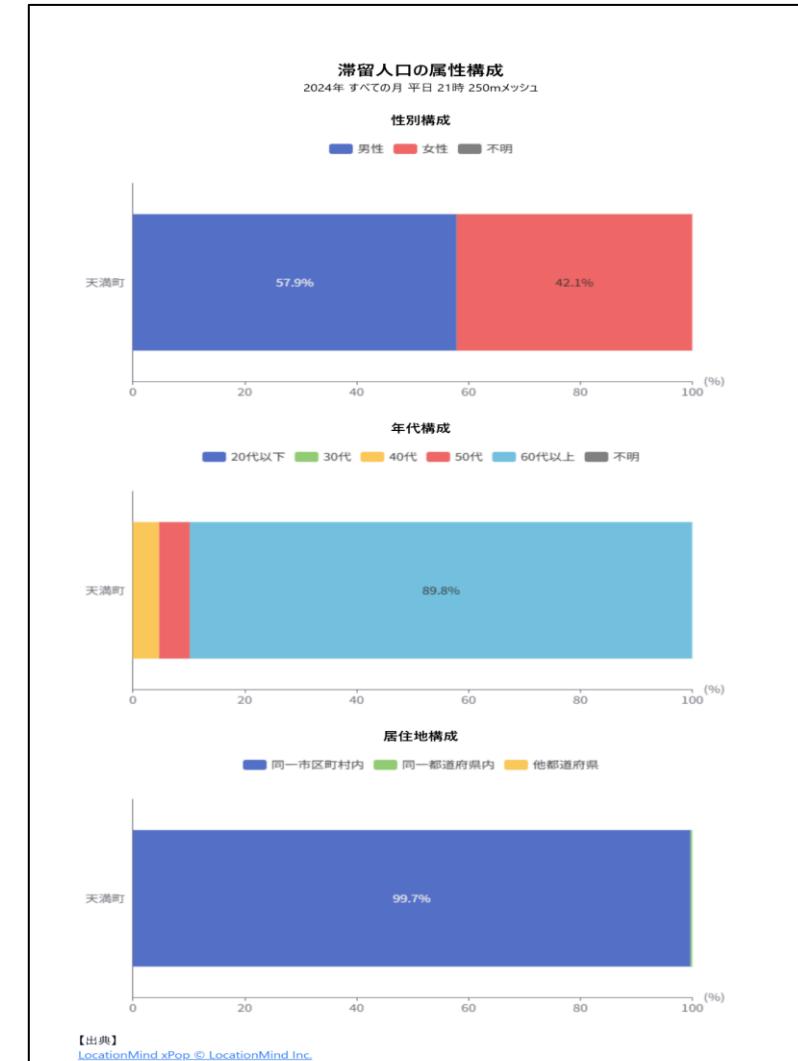
1.マーケティングマップについて

・滞留人口メッシュ分析

○夜間は昼間と比較し男性の割合が16%ほど多く、域外への通勤・通学が予想される。



○夜間は89%が60代以上となっており高齢化が進んでいる。



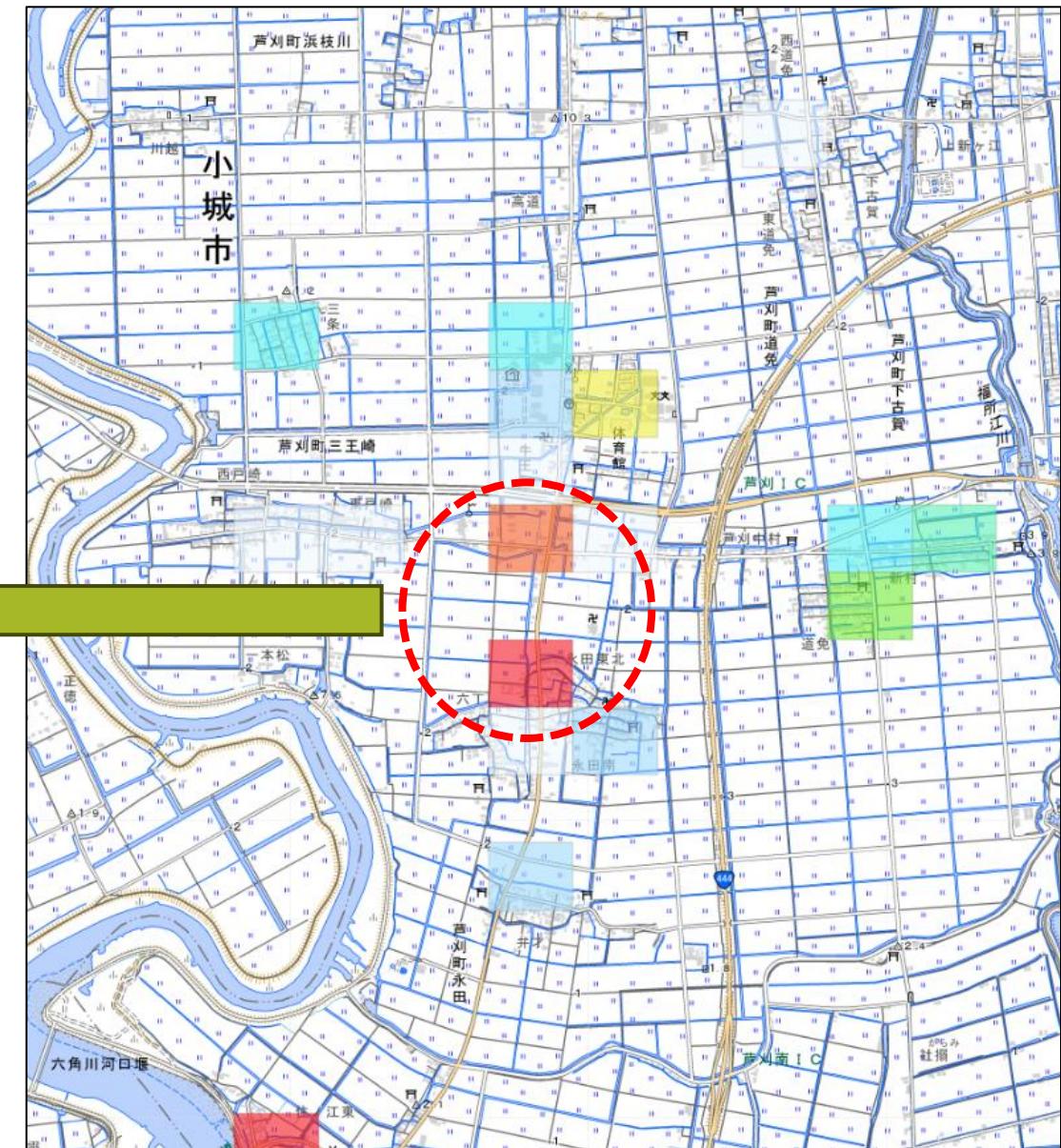
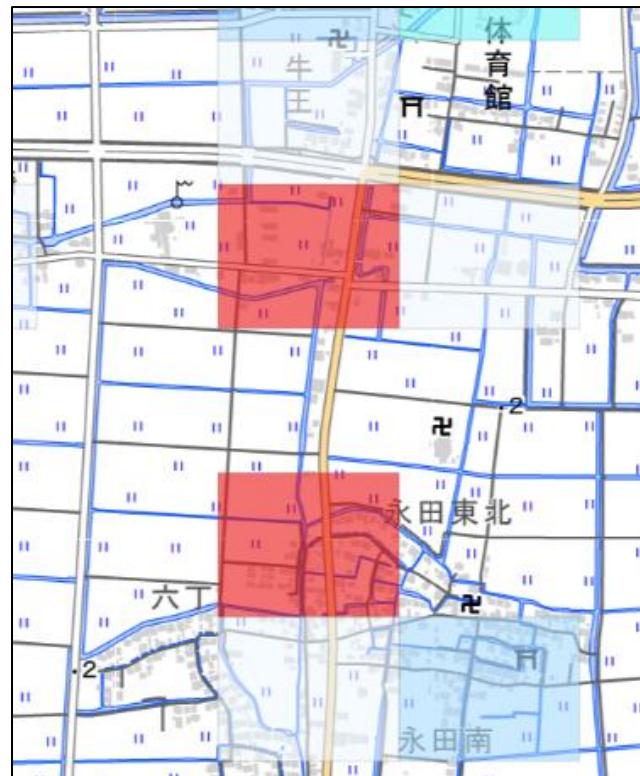
○昼間は市外からの流入があるため、通勤・通学が見受けられる。

1. マーケティングマップについて

- 滞留人口メッシュ分析

対象区域：芦刈町

時間帯：平日の昼間



1.マーケティングマップについて

・滞留人口メッシュ分析

選択地域においては60代以上が99.5%を占めている。

また居住地構成は99.2%が同一市区長村内であり時間帯別推移も少ない。

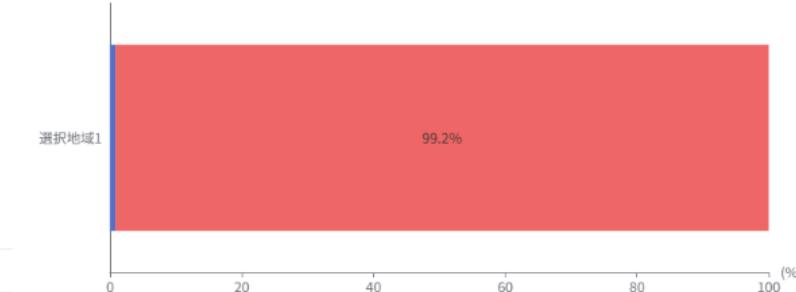
以上のことから高齢の女性が在宅されており、男性は就労されていること。また、この地区が非常に高齢化が進んでいることが分かった。

そのほか、10月、11月は大きく滞留人口が減ることから季節性の労働に従事されていることが推測される。

滞留人口の属性構成
2024年すべての月 平日 12時 250mメッシュ

性別構成

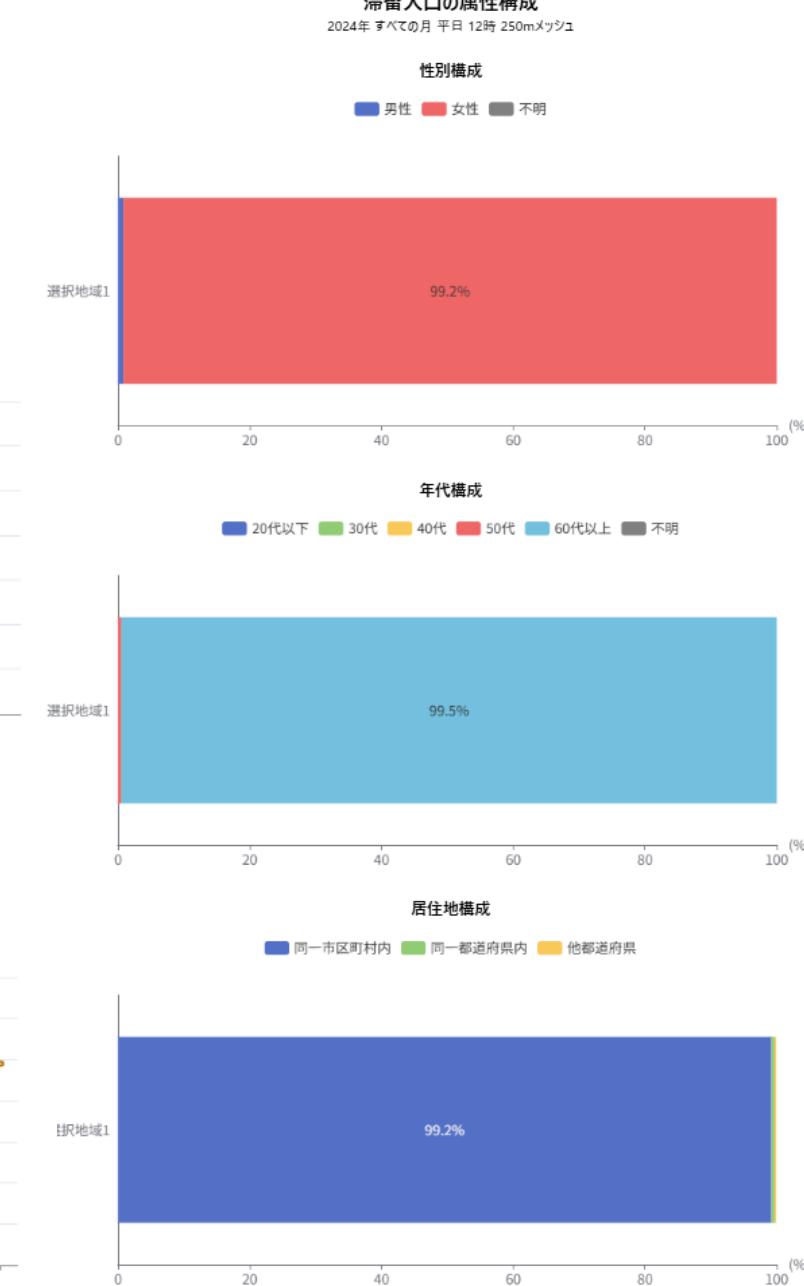
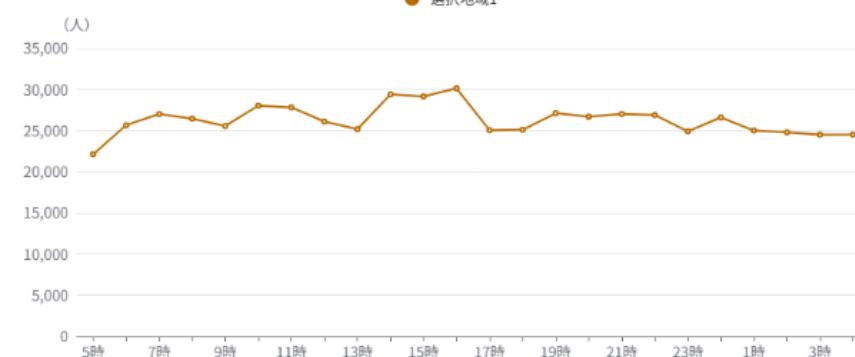
男性 女性 不明



滞留人口の月別推移
2024年 平日 12時 250mメッシュ
(すべての性別、すべての年代、すべての推定居住地)



滞留人口の時間別推移
2024年 すべての月 平日 250mメッシュ
(すべての性別、すべての年代、すべての推定居住地)

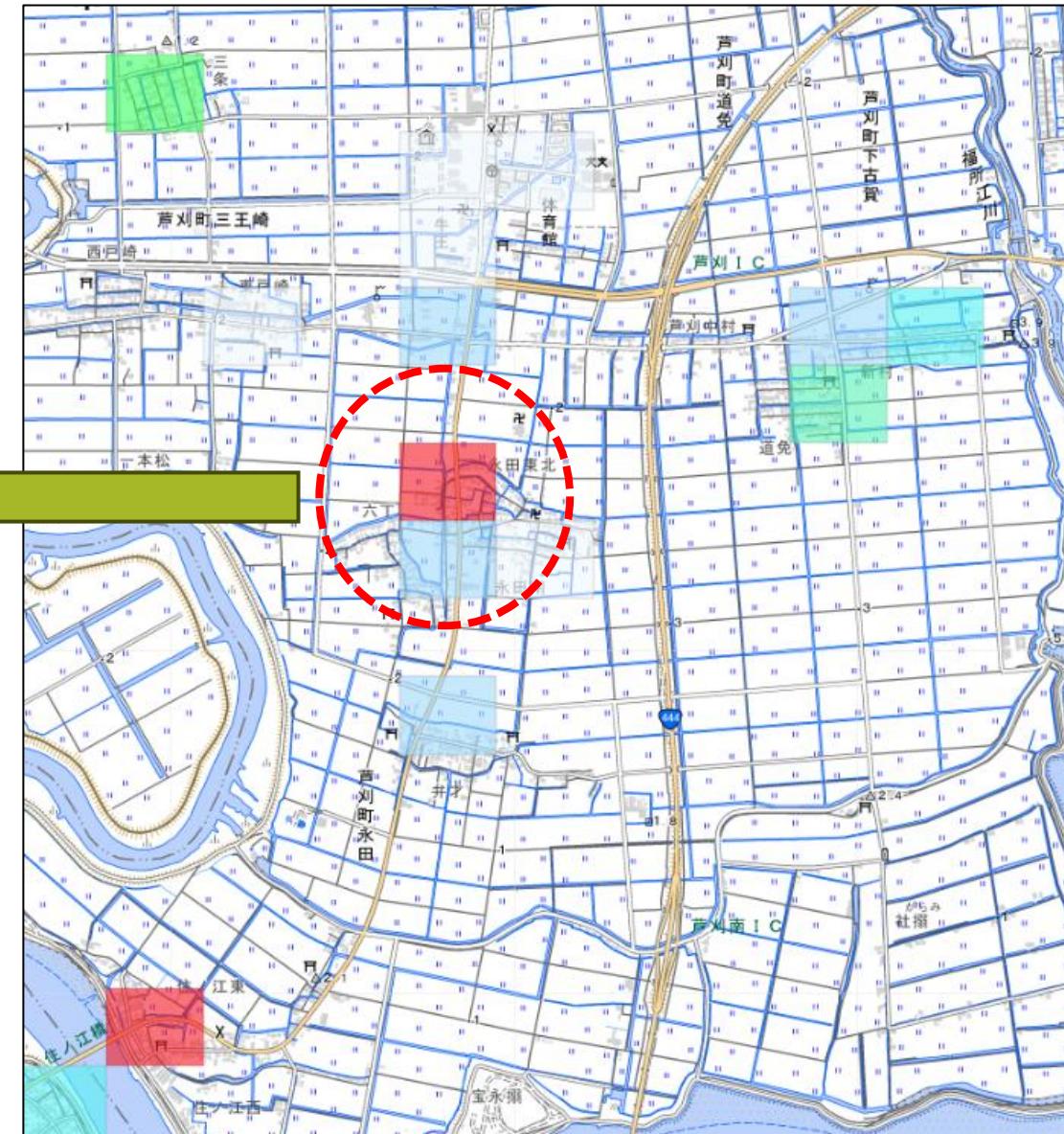
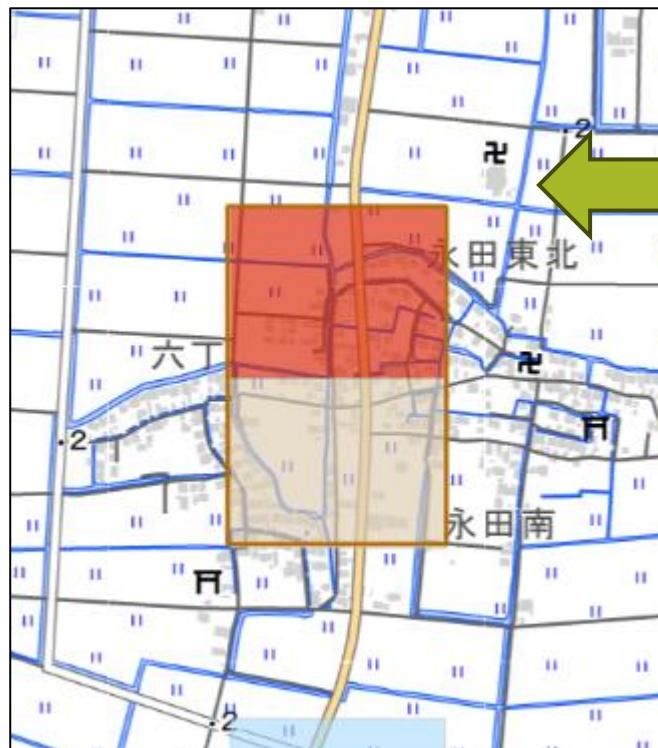


1.マーケティングマップについて

- ### • 滞留人口メッシュ分析

対象区域：芦刈町

時間帯：平日の夜間



1.マーケティングマップについて

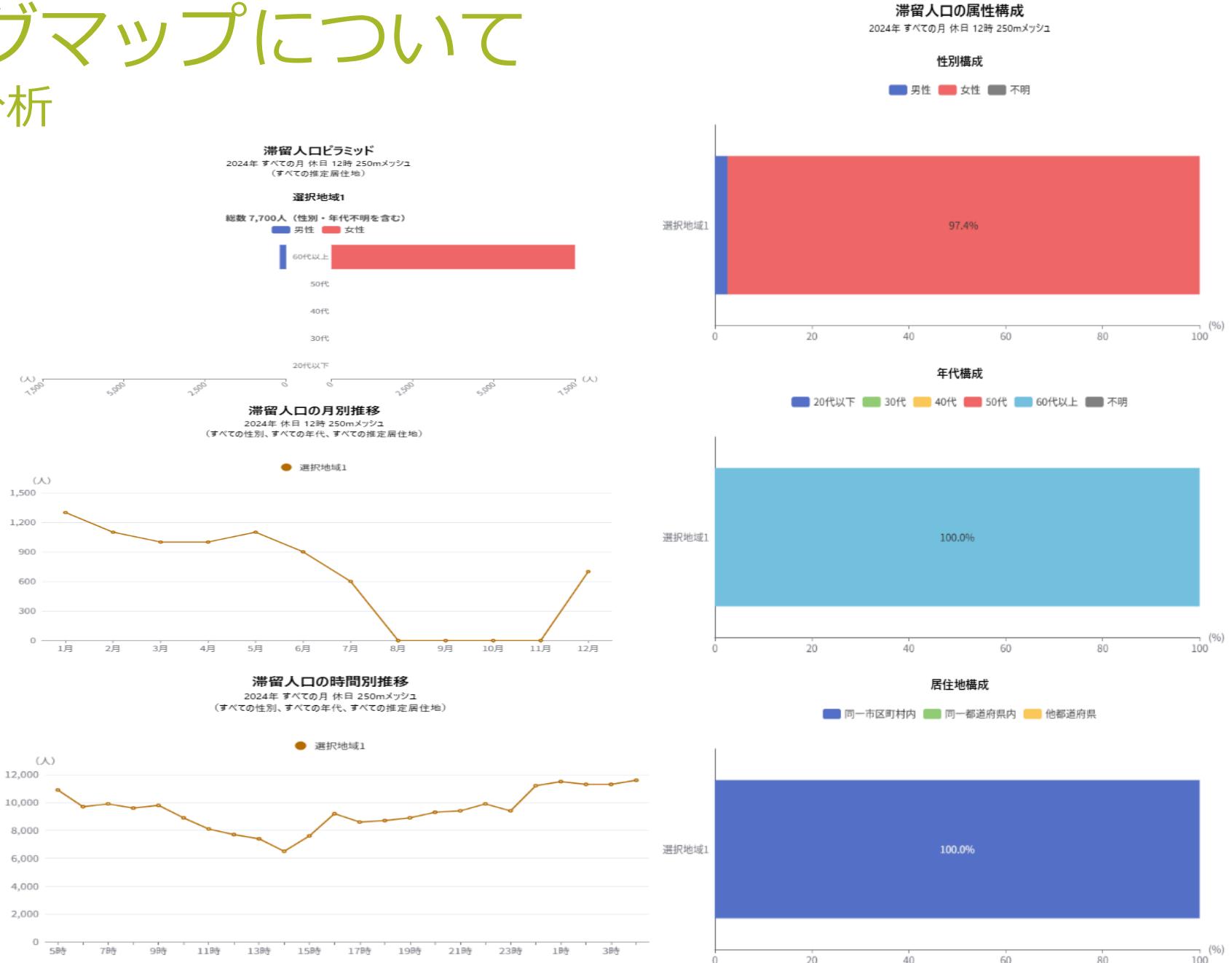
- ・滞留人口メッシュ分析

選択地域においては60代以上が100%を占めている。

また居住地構成は100%が同一市区長村内であり時間帯別推移も少ない。

以上のことから高齢の女性が在宅されており、休日も男性は就労されていること。また、この地区が非常に高齢化が進んでいることが分かった。

そのほか、8月から11月は大きく滞留人口が減ることから季節性の労働に従事されていることが推測される。



1.マーケティングマップについて

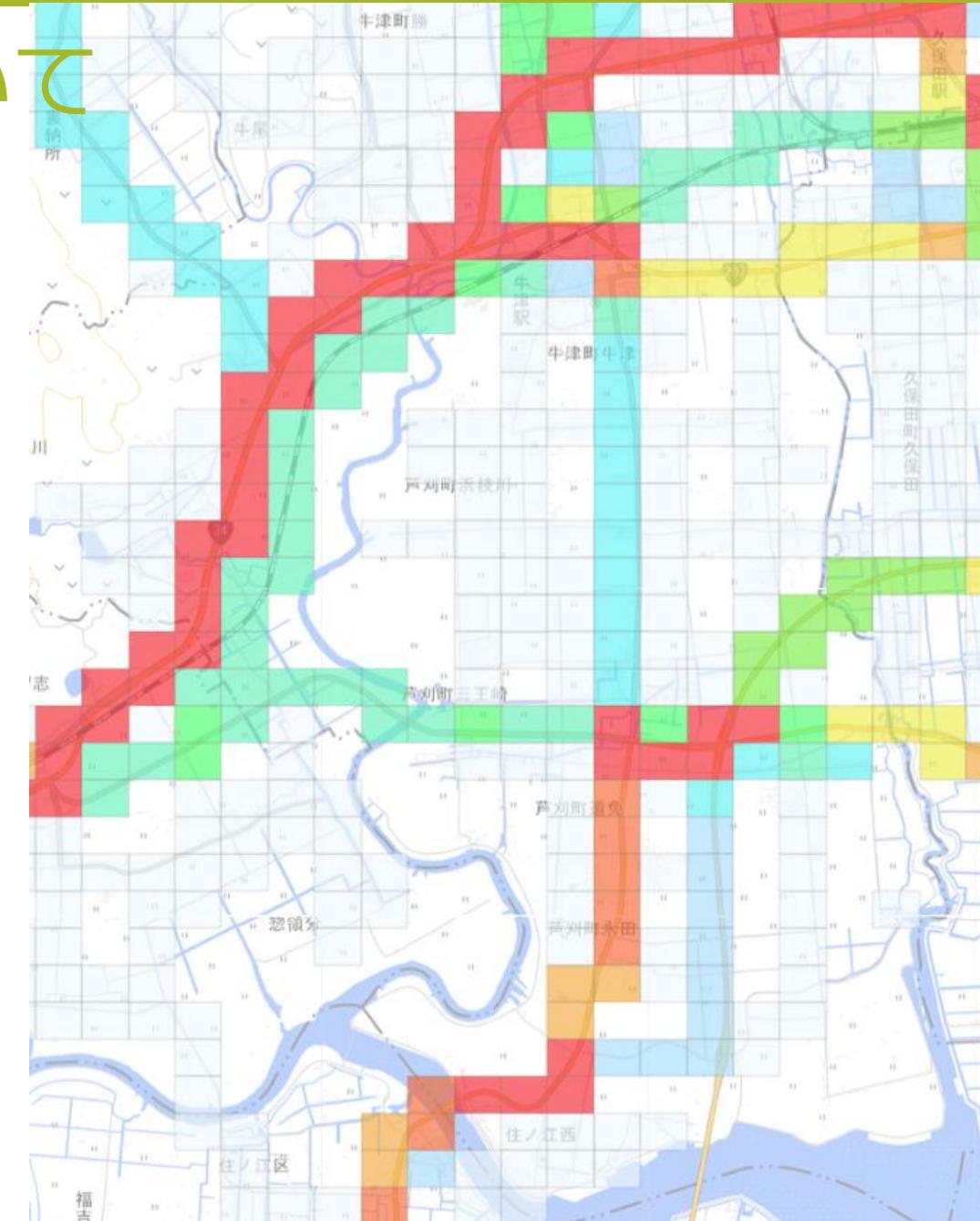
・通過人口メッシュ分析

※通過人口

あるメッシュを通過した人の 1 時間あたりの平均人数

下記の道路について分析

- ①国道34号線
- ②国道444号線
- ③江北芦刈線
- ④牛津芦刈線



1.マーケティングマップについて

・通過人口メッシュ分析

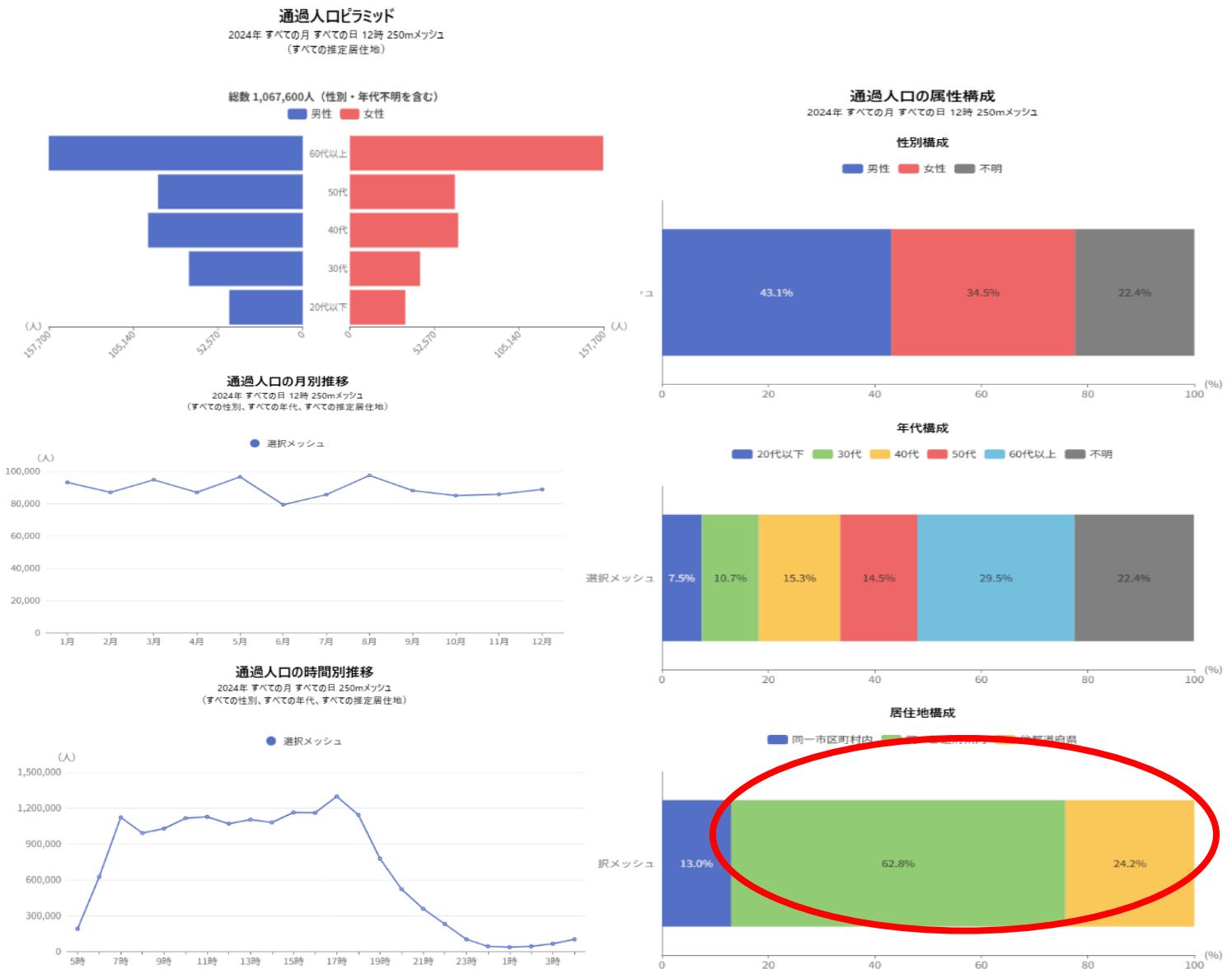
①国道34号線

時間帯：平日の昼間

交通量は非常に多く、特に同一都道府県内および他都道府県からの通過が87%と圧倒的に多い。

このことから、国道34号線では市外や県外からの通過者が多く、通勤や物流などの目的での利用が考えられる。

この道路沿いにある店舗は地域住民だけでなく、広域からの通過者をターゲットとしたマーケット戦略が必要となることが推測される。



1.マーケティングマップについて

・通過人口メッシュ分析

②国道444号線

時間帯：平日の昼間

交通量は国道34号線と比較すると少ないものの60,000人前後で安定して推移している。特に同一都道府県内および他都道府県からの通過が86%と圧倒的に多い。

このことから、国道444号線では市外や県外からの通過者が多く、通勤や物流などの目的での利用が考えられる。

この道路沿いにある店舗は地域住民だけでなく、広域からの通過者をターゲットとしたマーケット戦略が必要となることが推測される。



1.マーケティングマップについて

- ### • 通過人口メッシュ分析

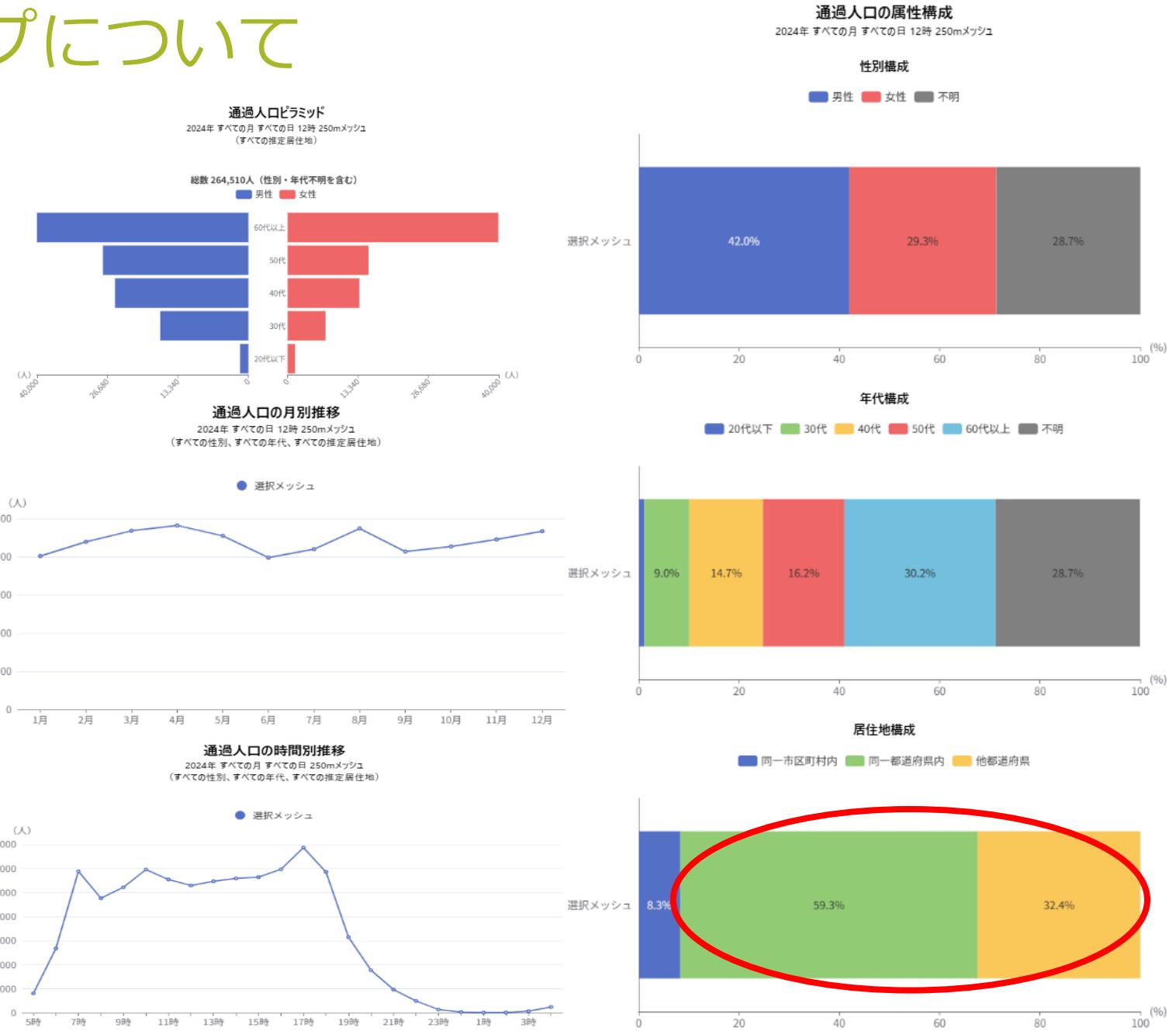
③ 芦刈江北線

時間帯：平日の昼間

交通量は20,000人強で安定して推移している。特に同一都道府県内および他都道府県からの通過が91%と圧倒的に多い。

このことから、芦刈江北線では市外や県外からの通過者が多く、通勤や物流などの目的での利用が考えられる。

この道路沿いは、広域からの通過者をターゲットとしたマーケット戦略が必要となるが、交通量が少ないことを念頭に計画を立てることが重要となる。



1.マーケティングマップについて

・通過人口メッシュ分析

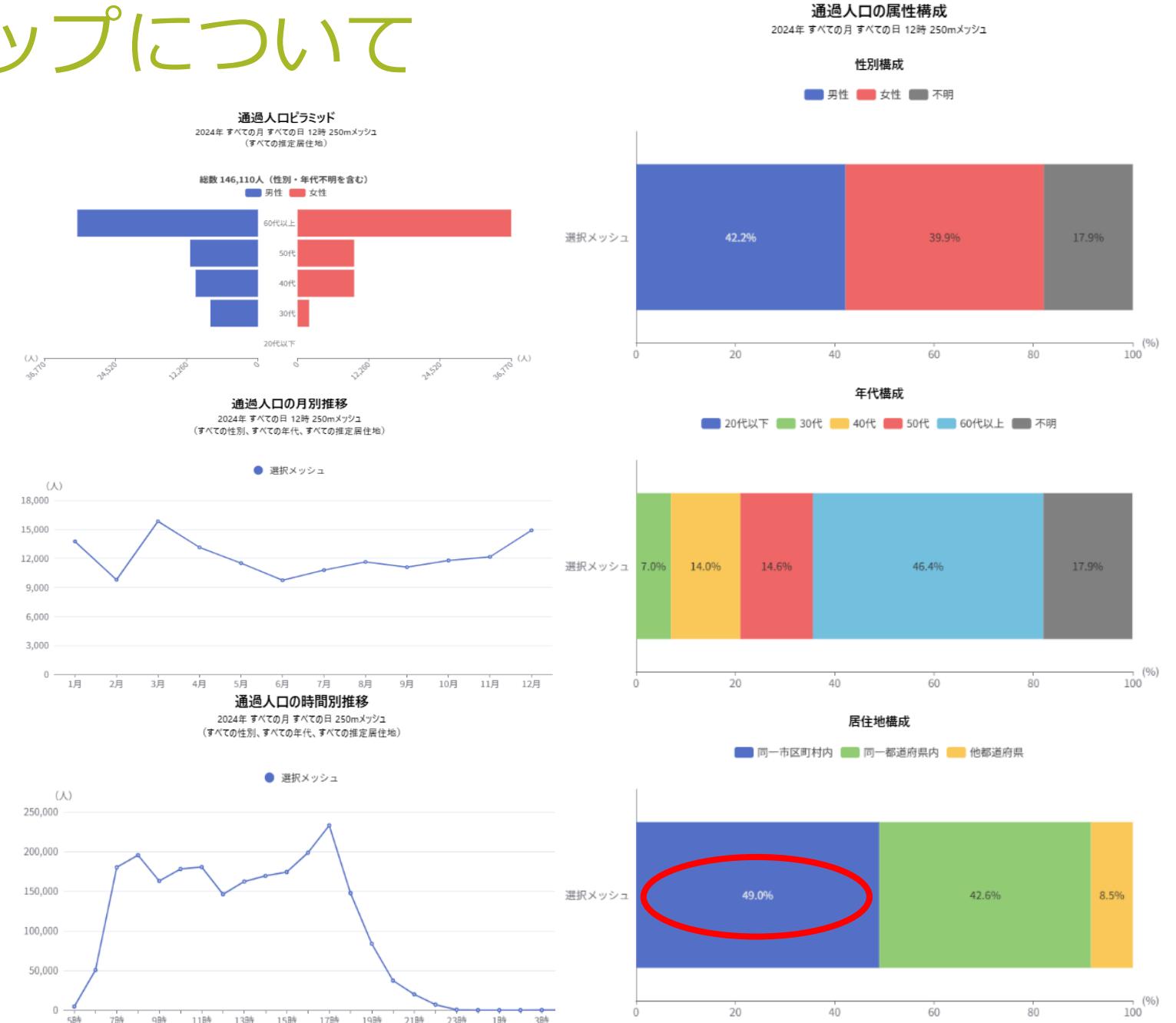
④牛津芦刈線

時間帯：平日の昼間

交通量は12,000人前後と交通量は少ない。利用者は市内の方が最も多く49%となっている。

また60歳以上の割合も46%とほかの道路と比較し高い。

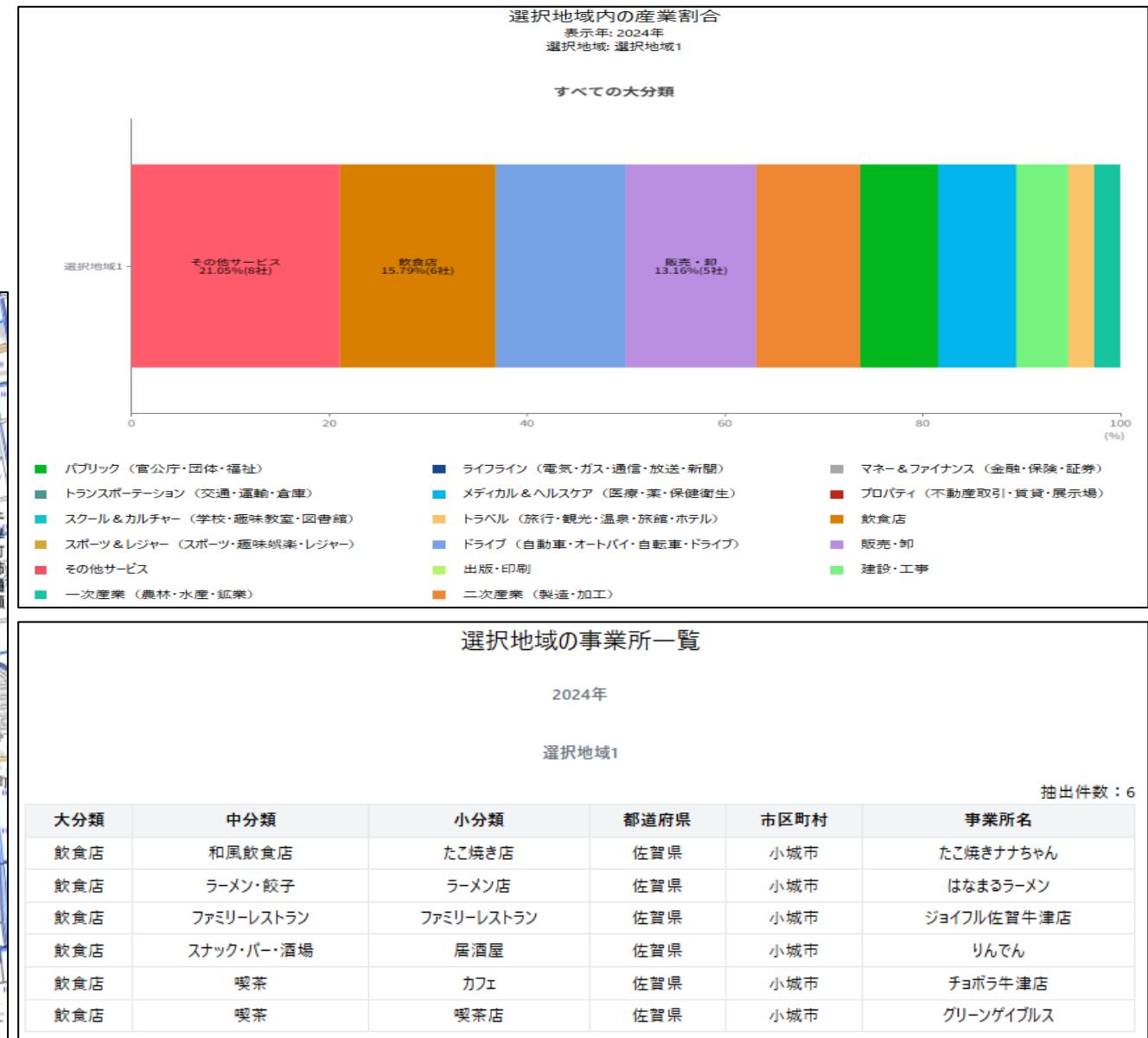
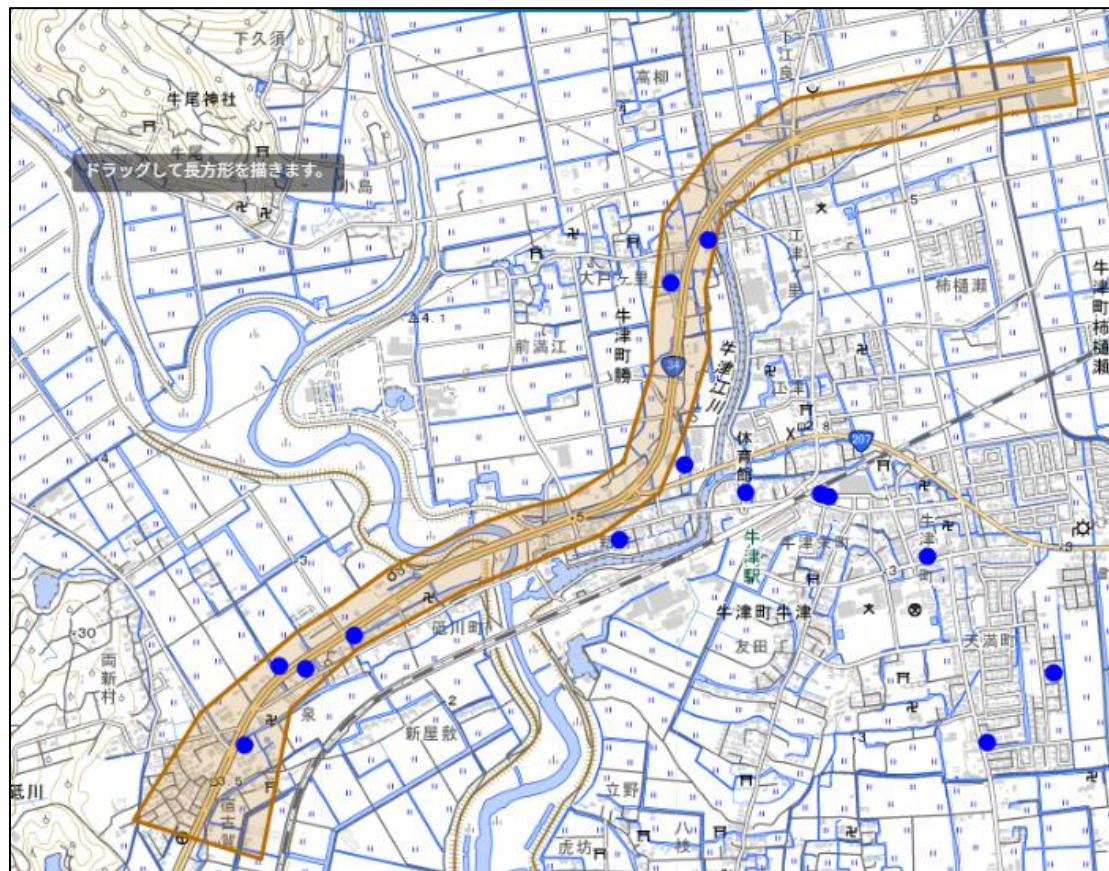
このことから地元住民の生活道路としての利用が多いことが考えられる。市外からの通過者も多く通勤に利用されていることが考えられる。



1.マーケティングマップについて

・事業所立地分析

国道34号線沿いの事業所について分析を行ったところ下記の通りとなる。



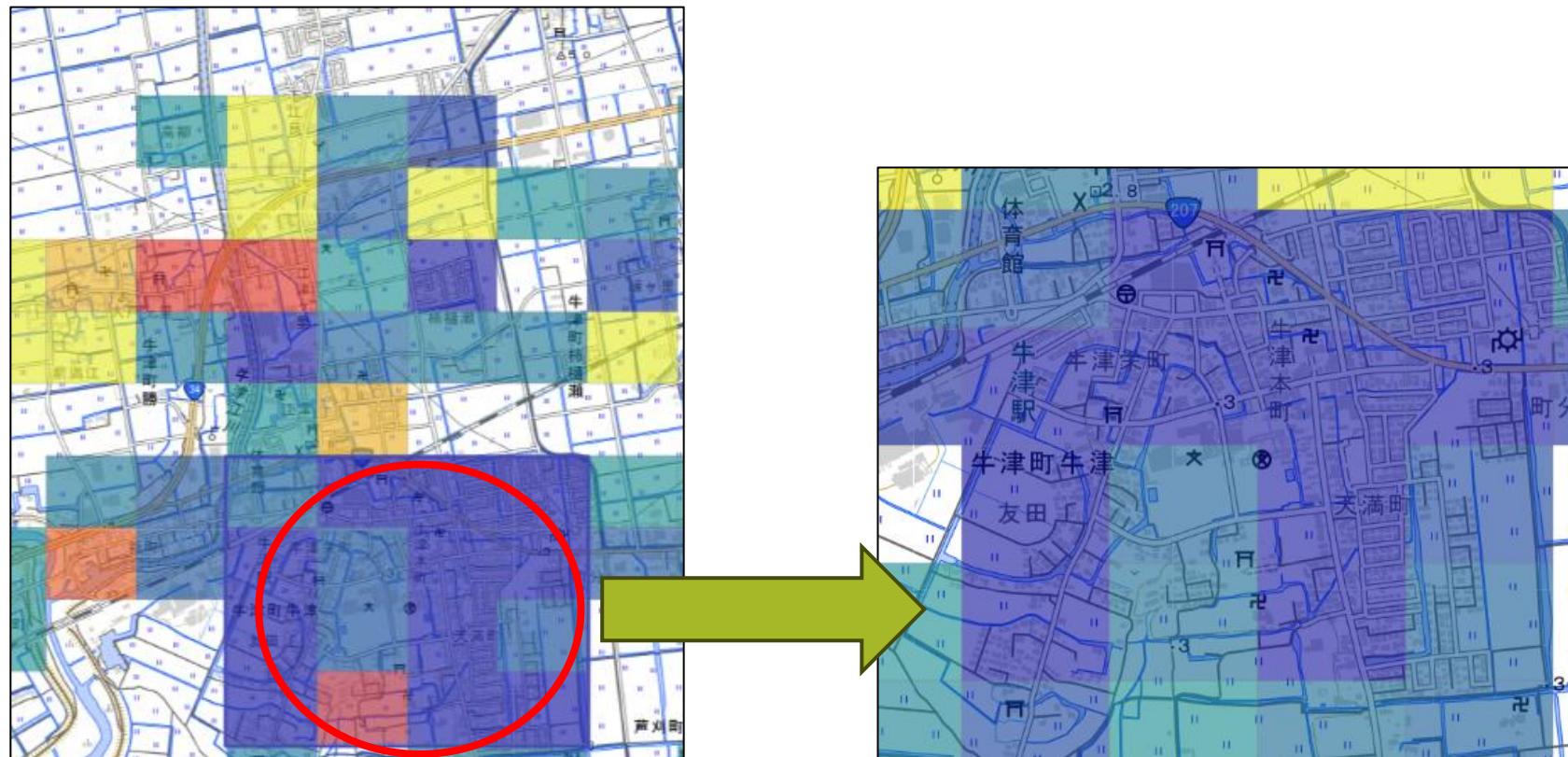
1.マーケティングマップについて

- 将来人口メッシュ分析

表示年：2025年⇒2070年

増減数

①牛津の商店街を中心に分析



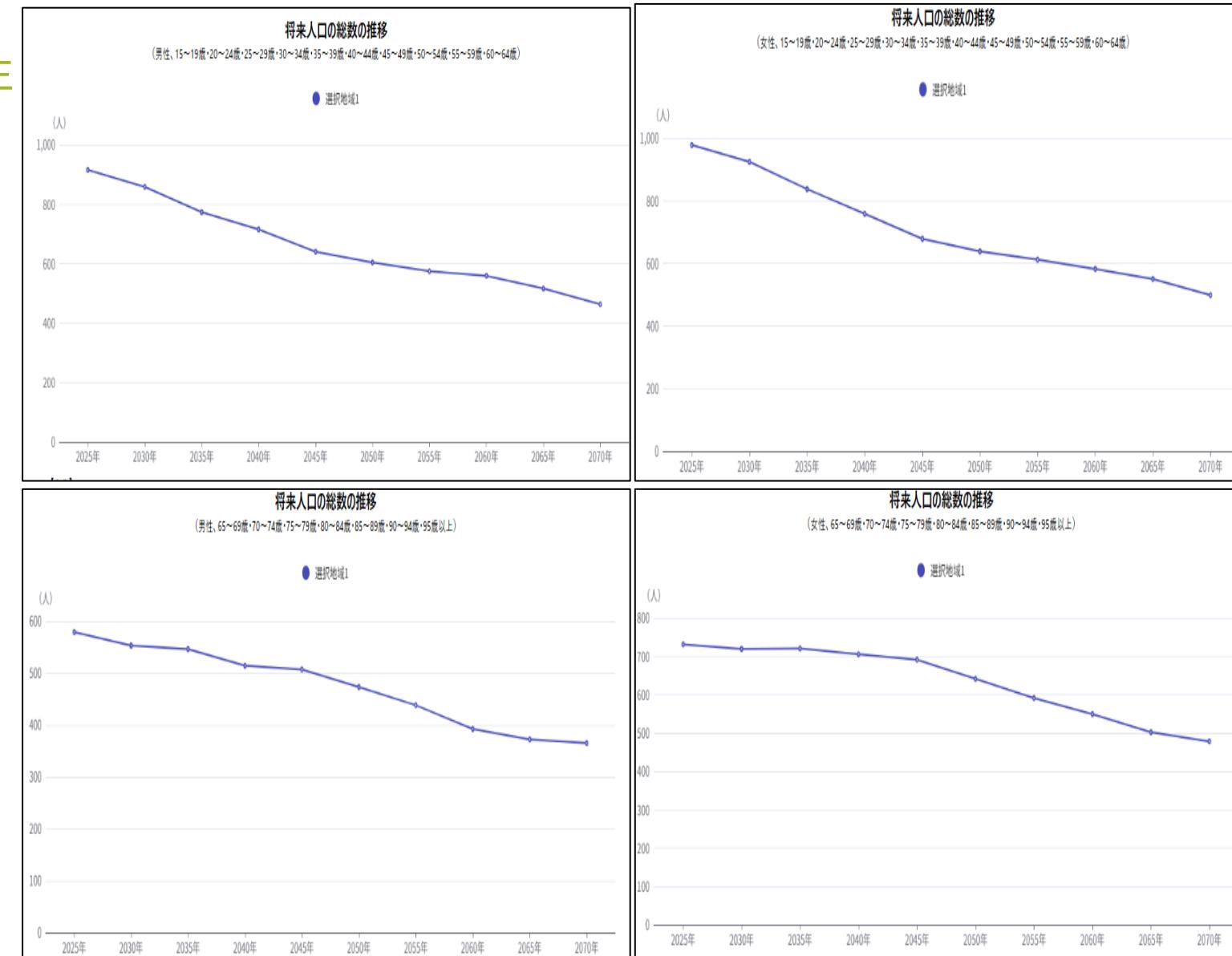
1.マーケティングマップについて

- 将来人口メッシュ分析
表示年：2025年⇒2075年
総数

上段のグラフは15歳～64歳までの男性・女性の人口推移グラフ、下段は65歳以上の男性・女性の人口推移グラフである。

2070年には生産年齢人口、高齢人口をもにほぼ半減している。

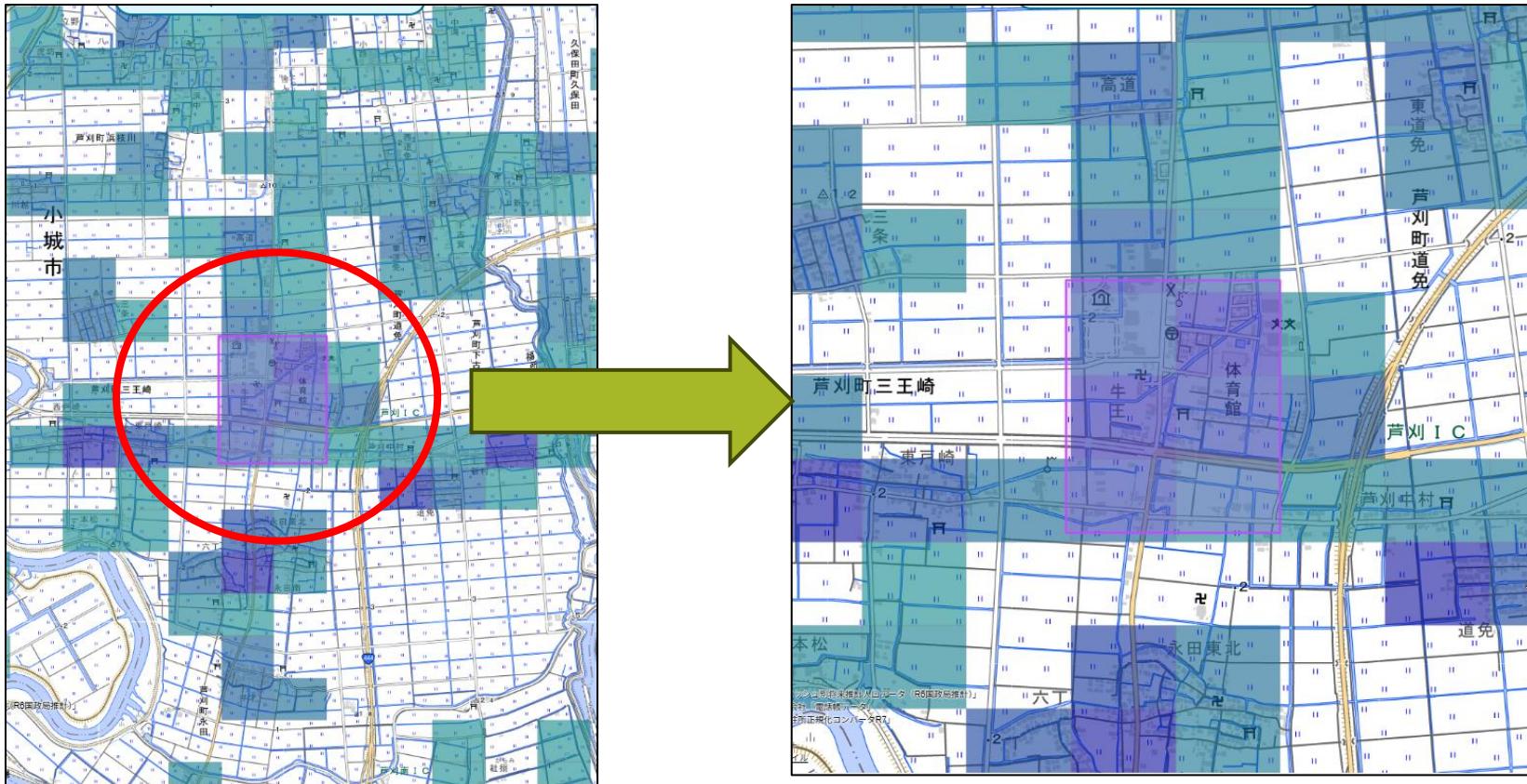
商店街機能の縮小や空き家・空き店舗の増加が懸念される。



1.マーケティングマップについて

- 将来人口メッシュ分析
表示年：2025年⇒2070年
増減数

①芦刈観蘭校を中心に分析



1. マーケティングマップについて

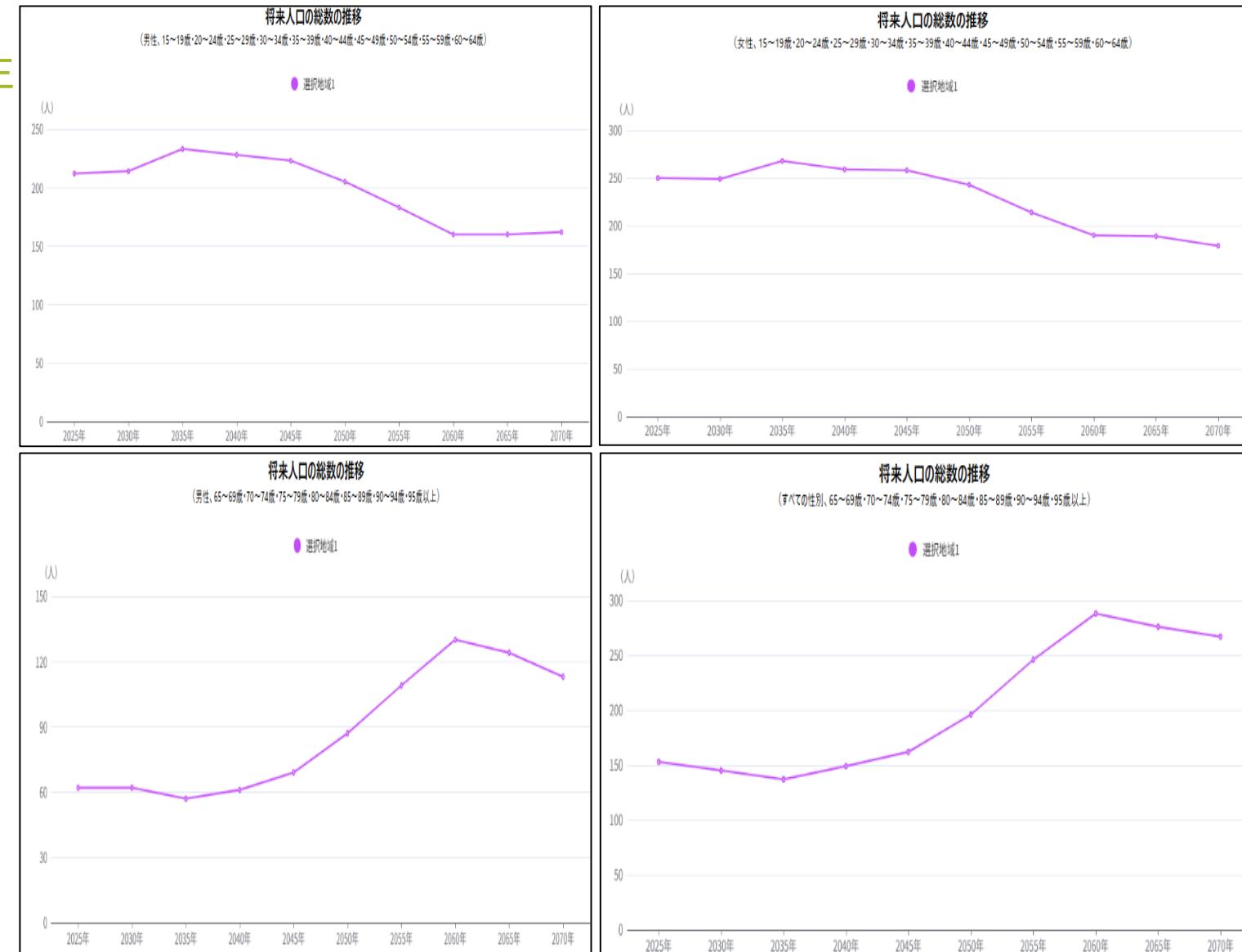
・将来人口メッシュ分析

表示年：2025年⇒2075年

総数

上段のグラフは15歳～64歳までの男性・女性の人口推移グラフ、下段は65歳以上の男性・女性の人口推移グラフである。

2045年を境に生産年齢人口は減少に転じている。高齢人口は2045年より大きく増加している。



2. 観光マップについて

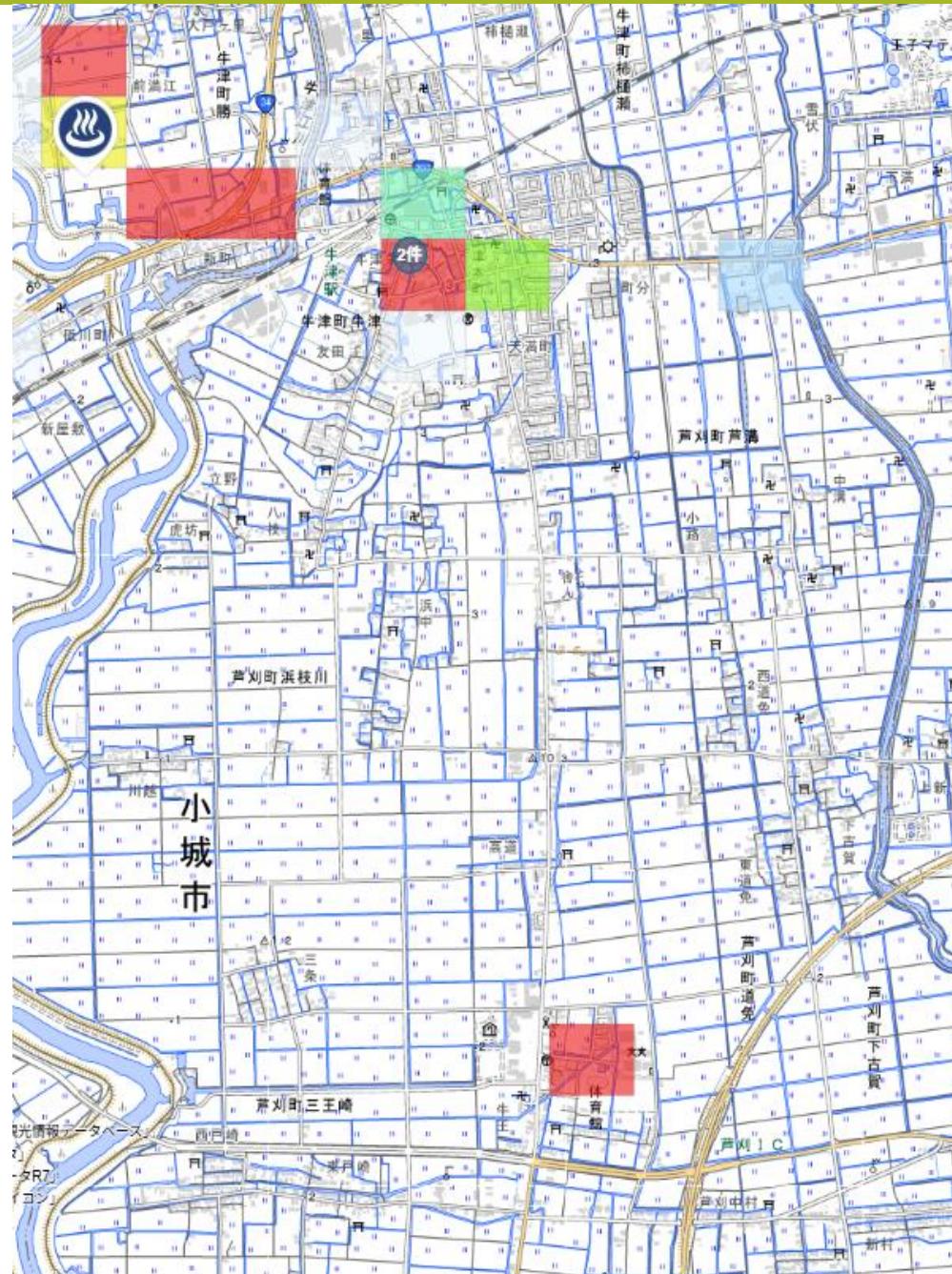
- 観光地分析について
条件
 - 時間帯 休日、昼間
 - 属性 同一都道府県内、他都道府県

①赤レンガ館周辺

②小城のりスポーツセンター

③ブラックモンブランフットボールセンター

への来訪が多い



2. 観光マップについて

・観光地分析について

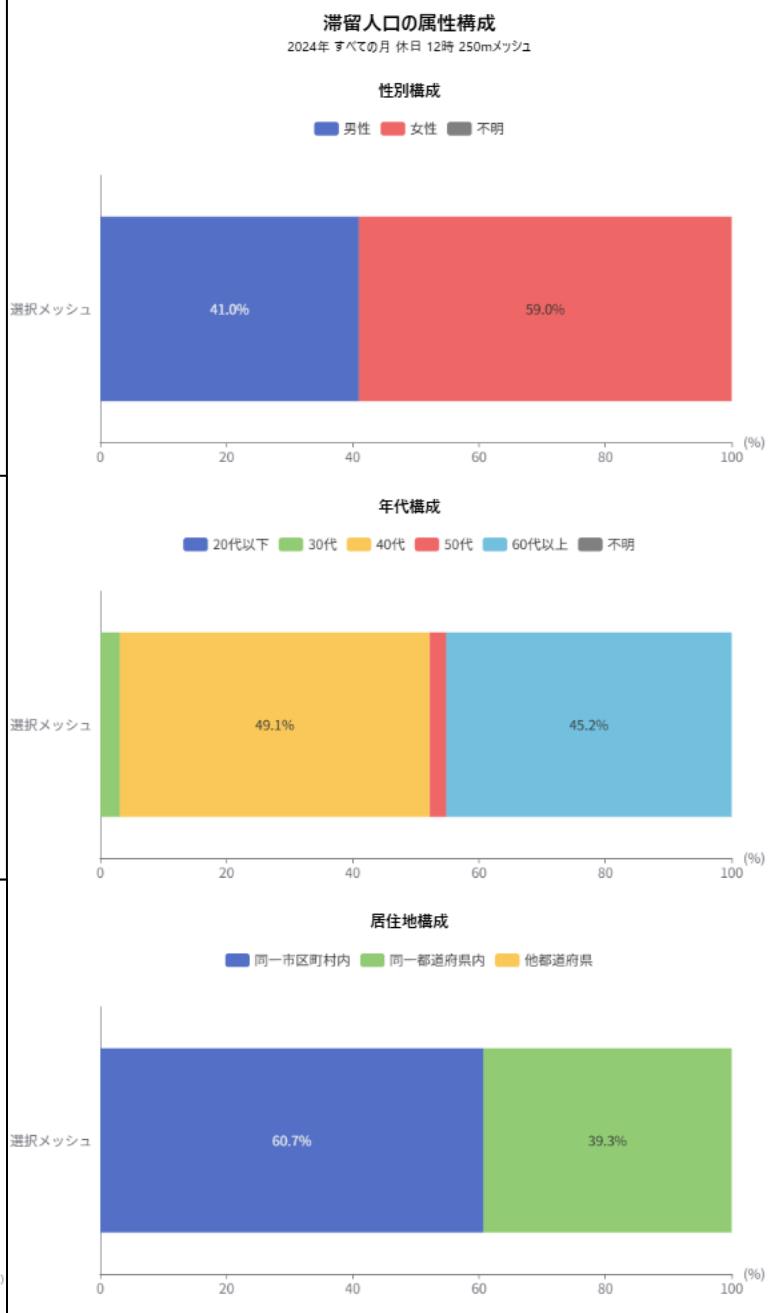
条件

時間帯 休日、昼間

属性 同一都道府県内、他都道府県

①赤レンガ館周辺

分析を行ったところ40代女性の割合が大きく、また県内からの旅行者が多いことがわかった。一方で県外からの来訪は無く、県外への十分なPRができていないことが懸念される。また月別の来訪者数の変動が大きく閑散期でのイベント開催などによる安定的な来客誘致が効果的であると考えられる。



2. 観光マップについて

- 観光地分析について

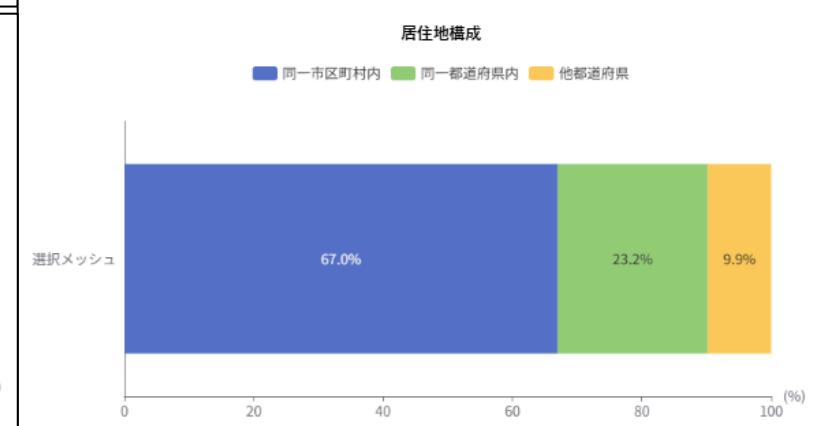
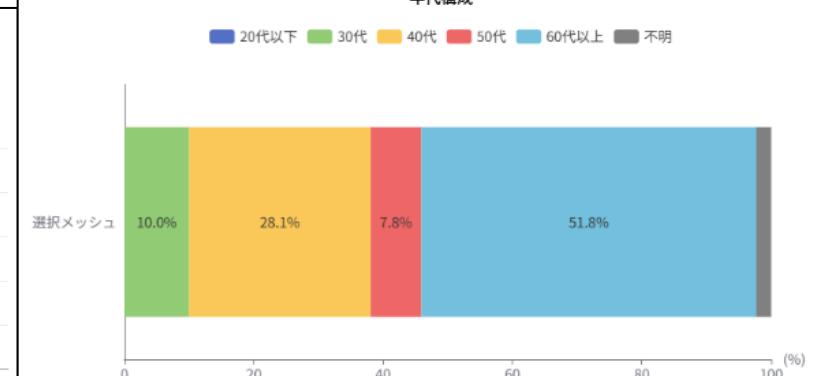
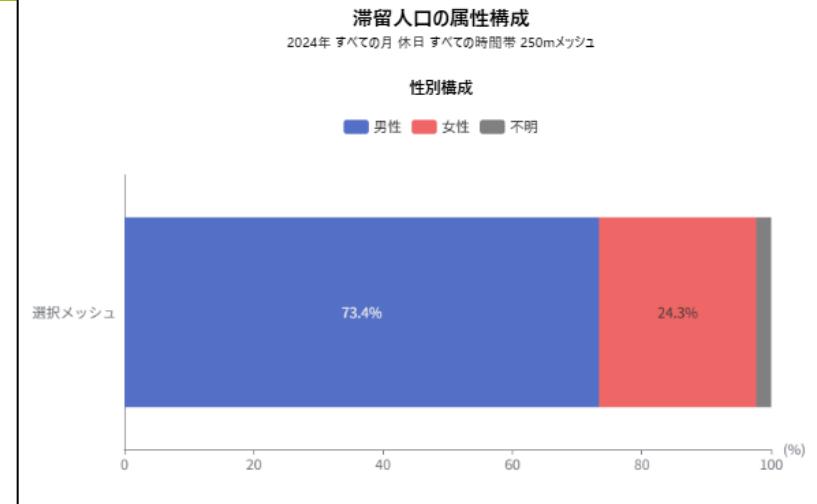
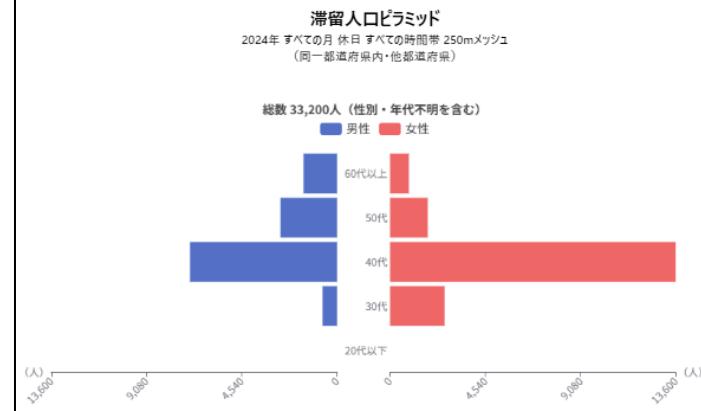
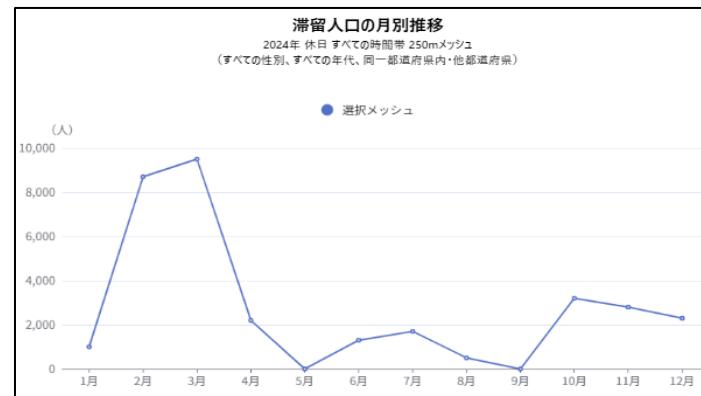
条件

時間帯 休日、昼間

属性 同一都道府県内、他都道府県

②小城のりスポーツセンター

分析を行ったところ40代女性および男性の割合が大きく、また県内からの旅行者が多いことがわかった。また月別の来訪者数の2月と3月が最も多く、その他の月では来訪はない。



2. 観光マップについて

- 観光地分析について

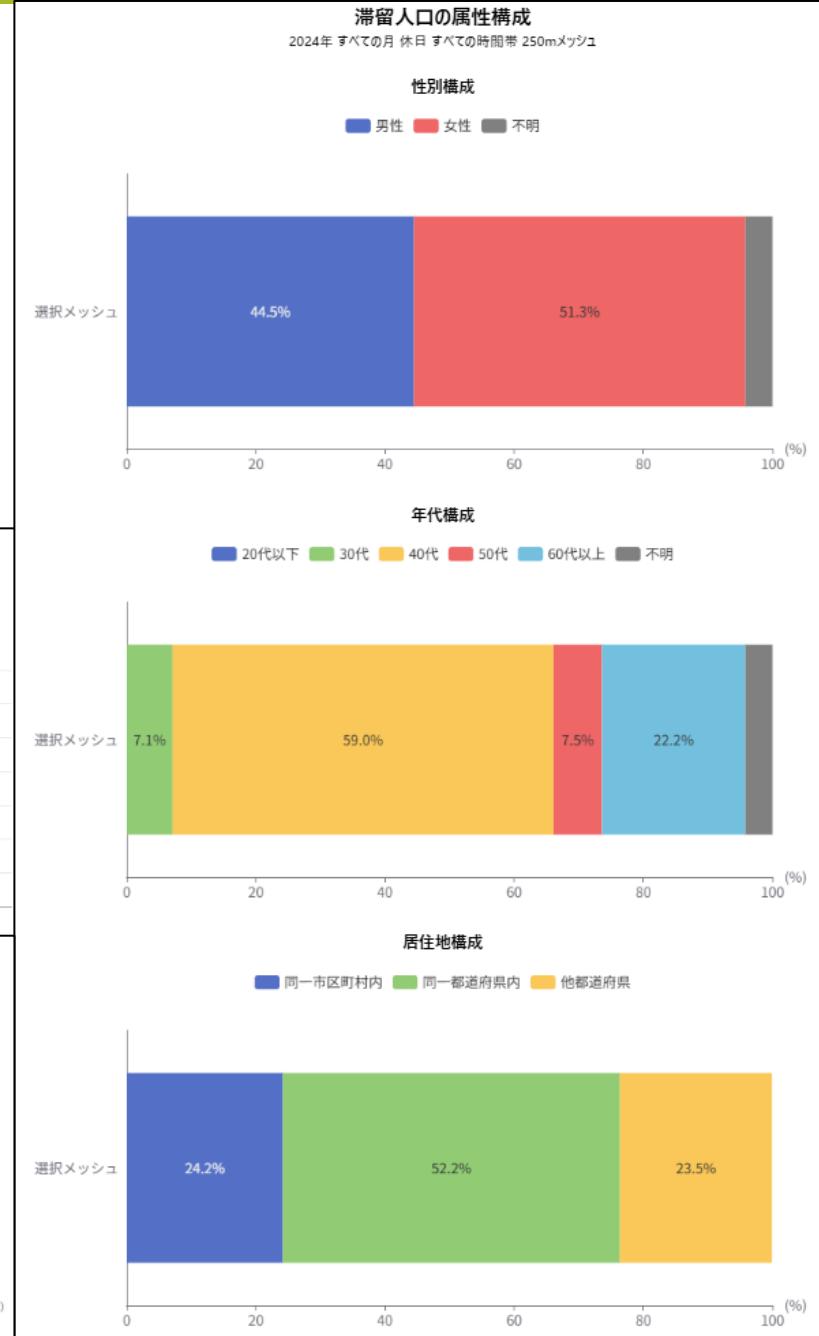
条件

時間帯 休日、昼間

属性 同一都道府県内、他都道府県

③ブラックモンブラン フトボールセンター

分析を行ったところ、年代別では男性、女性とも圧倒的に40代の割合が大きく、また県内の他市町からの立ち寄りが52%、県外からが23%となり、市内の利用は25%にとどまることがわかった。



2. 観光マップについて

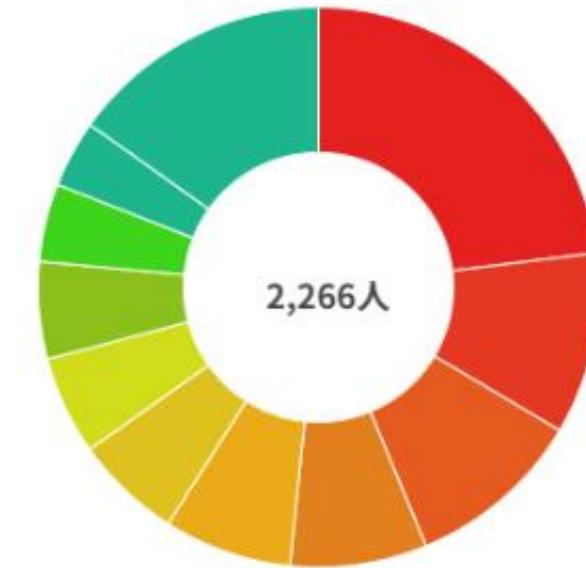
- 宿泊分析について

条件：2024年

小城市的居住都道府県別の延べ宿泊者数を見ると福岡県からの宿泊者が最も多い。

年間の宿泊者数は2,266人と非常に少なくなっています。佐賀県全体（約200万人）のうち、0.1%となっている。

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合
2024年 佐賀県 小城市



- 1位 福岡県 522人 (23.04%)
- 2位 神奈川県 238人 (10.50%)
- 3位 熊本県 231人 (10.19%)
- 4位 佐賀県 179人 (7.90%)
- 5位 長崎県 167人 (7.37%)
- 6位 宮崎県 140人 (6.18%)
- 7位 大分県 129人 (5.69%)
- 8位 東京都 127人 (5.60%)
- 9位 鹿児島県 102人 (4.50%)
- 10位 静岡県 88人 (3.88%)
- その他 343人 (15.14%)

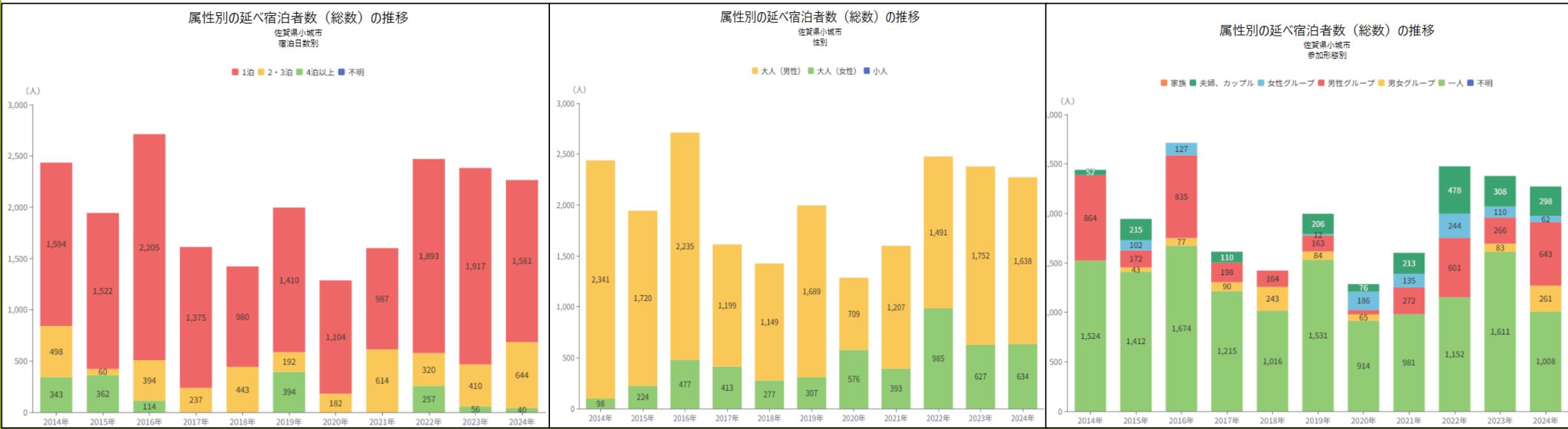
2. 観光マップについて

・宿泊分析について

条件：2024年

小城市的宿泊者の属性を見てみると圧倒的に男性が多い。

また参加形態をみてみると一人、男性グループで1,651人となっており72%を占めている。このことから小城市的宿泊についてはビジネスでの出張利用が多いことが考えられる。

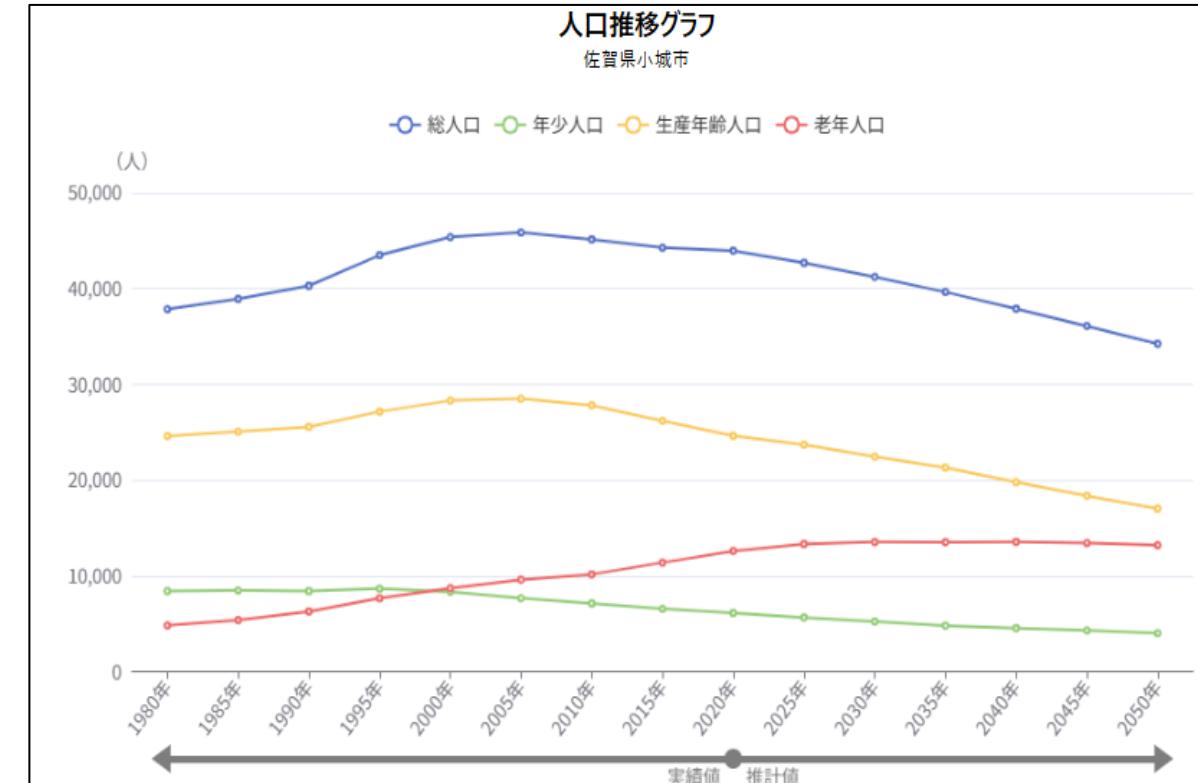


3. 人口マップについて

・人口構成分析

○小城市の人口は2005年をピーク（45,852人）に、減少が続いている。2050年には34,241人となる予測である。2025年以降は0.8%程度の人口が毎年減少することが予想されている。

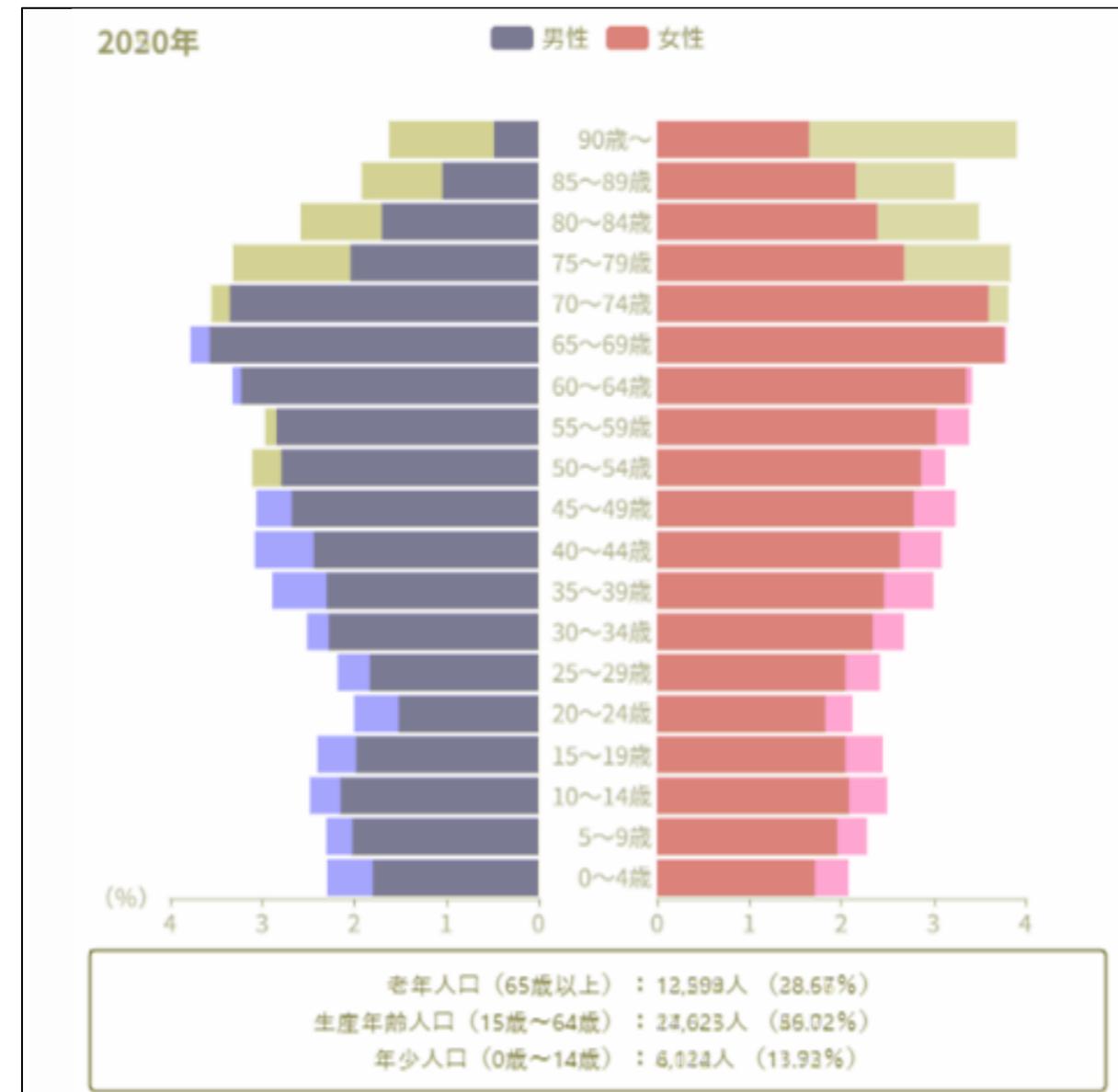
○一方で老人人口は2040年まで増加し、その割合は35%を占め、その後も割合は増加する予測となっている。



3. 人口マップについて

・人口構成分析

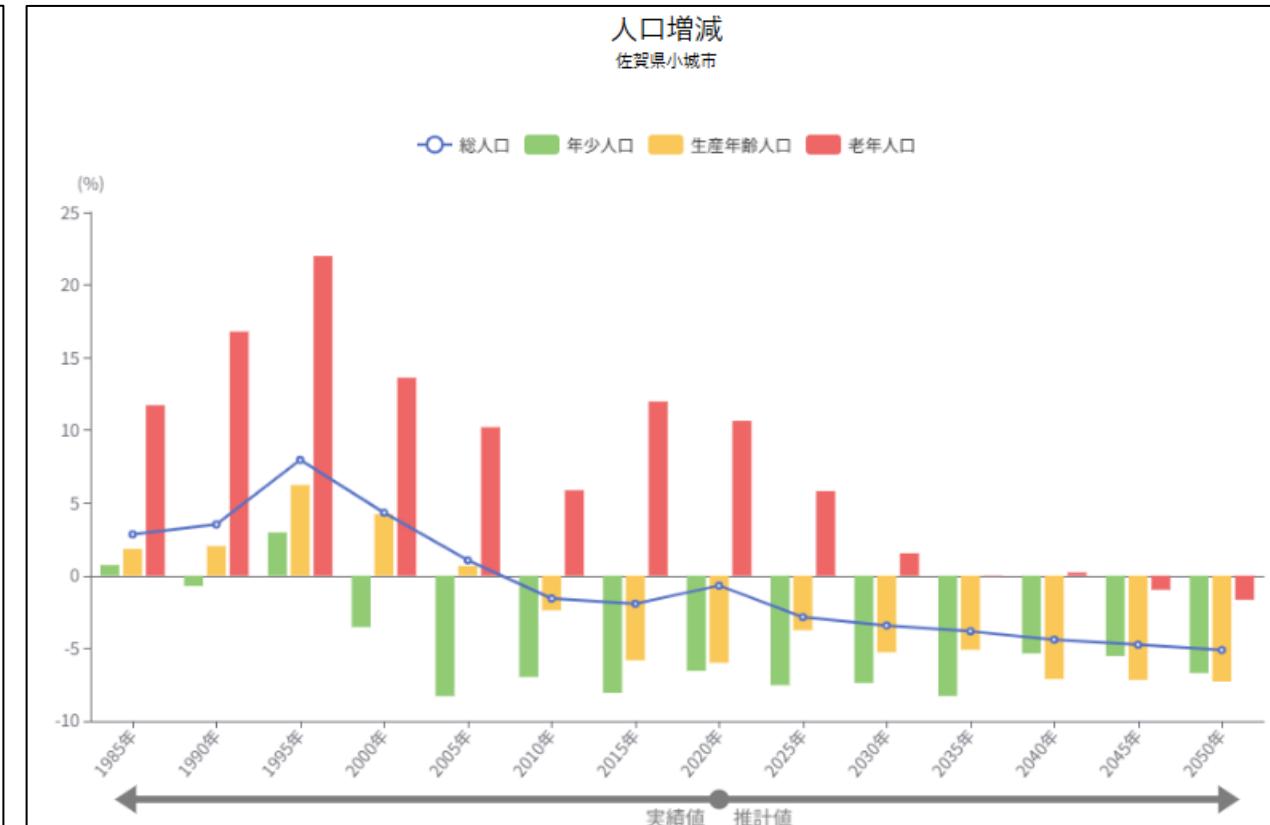
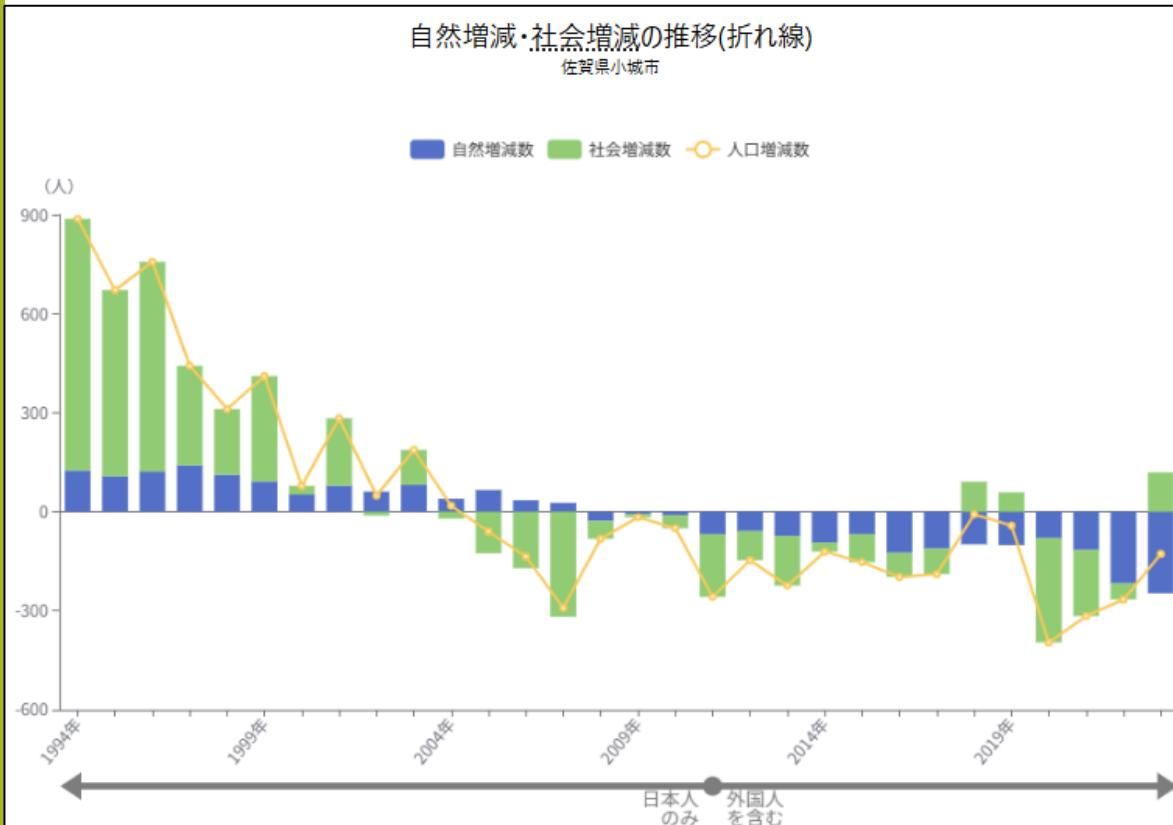
○2020年（青と赤）と2050年（薄い緑）の人口ピラミッドを比較してみると、49歳以下の人口は大きく減少している。一方で75歳以上の人口は大きく増加しており特に女性の増加が著しい。



3. 人口マップについて

・ 人口増減分析

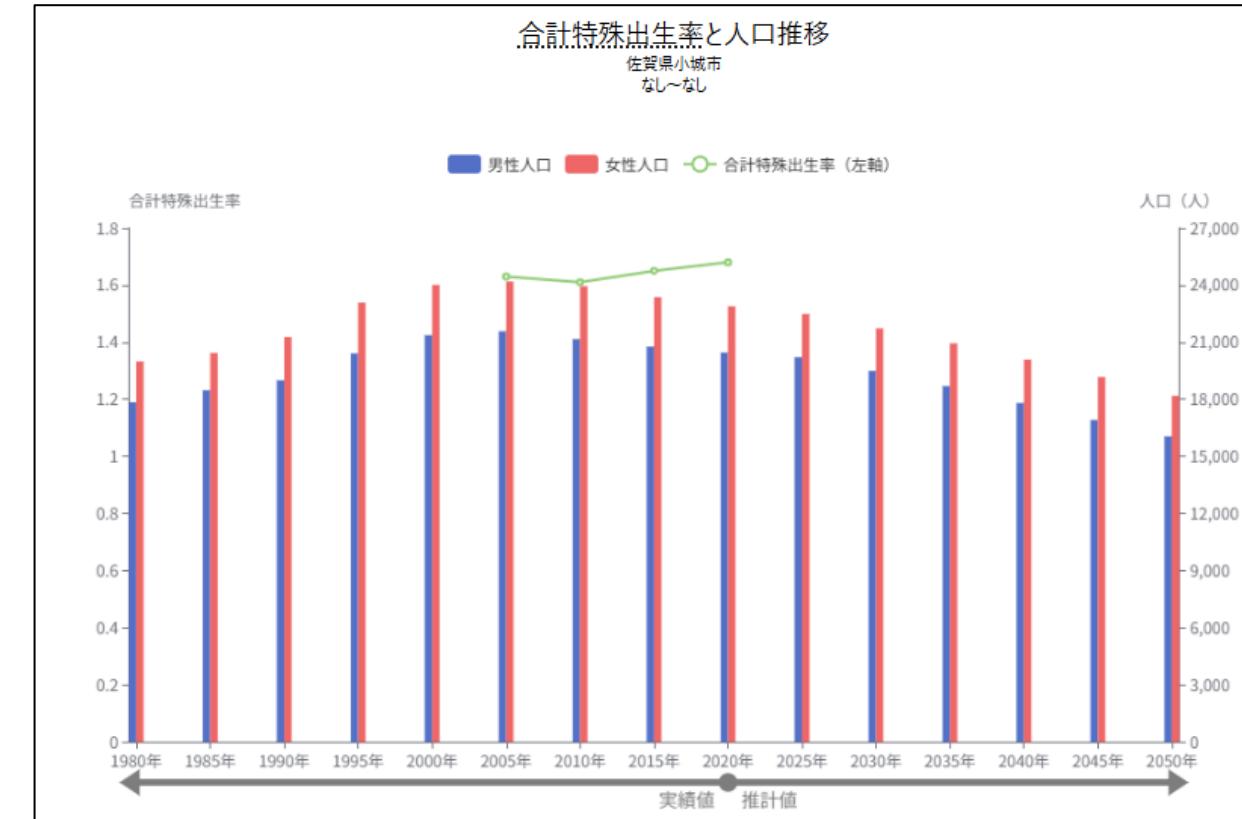
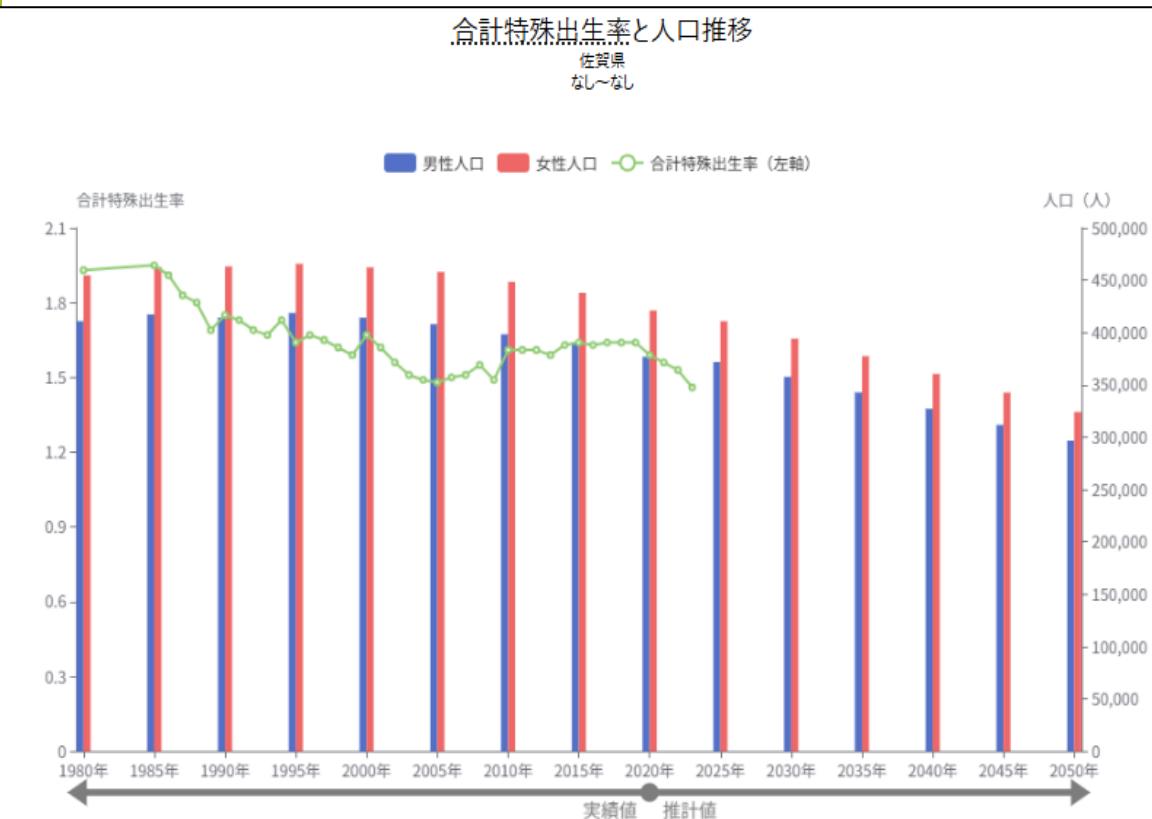
- 2000年代になると転出超過による社会減が続いており、2005年を境に総人口も減少が続いている。
- 2020年以降は自然減も加速しており今後、人口減少はさらに加速することが予想される。



3. 人口マップについて

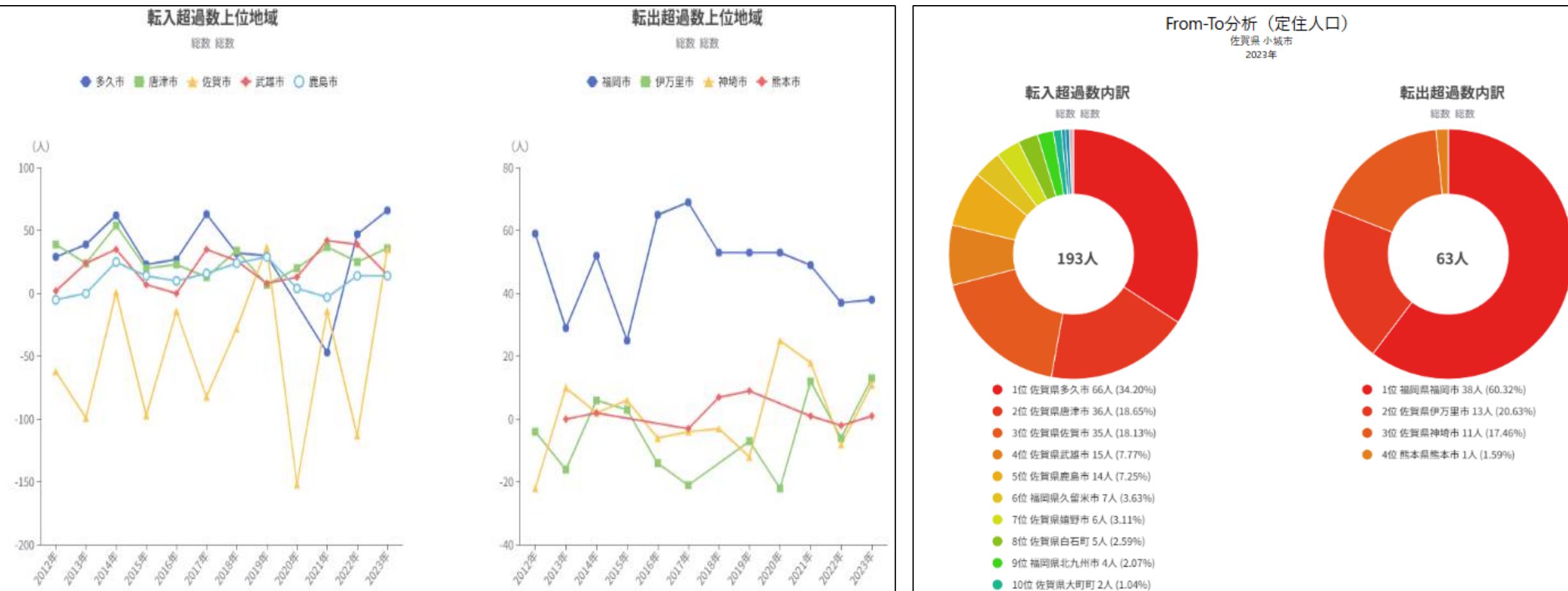
・自然増減分析

○佐賀県・小城市ともに人口を維持するための水準である2.07を大きく下回っている。



3. 人口マップについて ・社会増減分析

- 転入超過は多久市がもっとも多く次いで唐津市、佐賀市、武雄市、鹿島市となっている。
- 転出超過は長期間に渡って福岡市が多く、ここ最近は伊万里、神埼が増加傾向である。



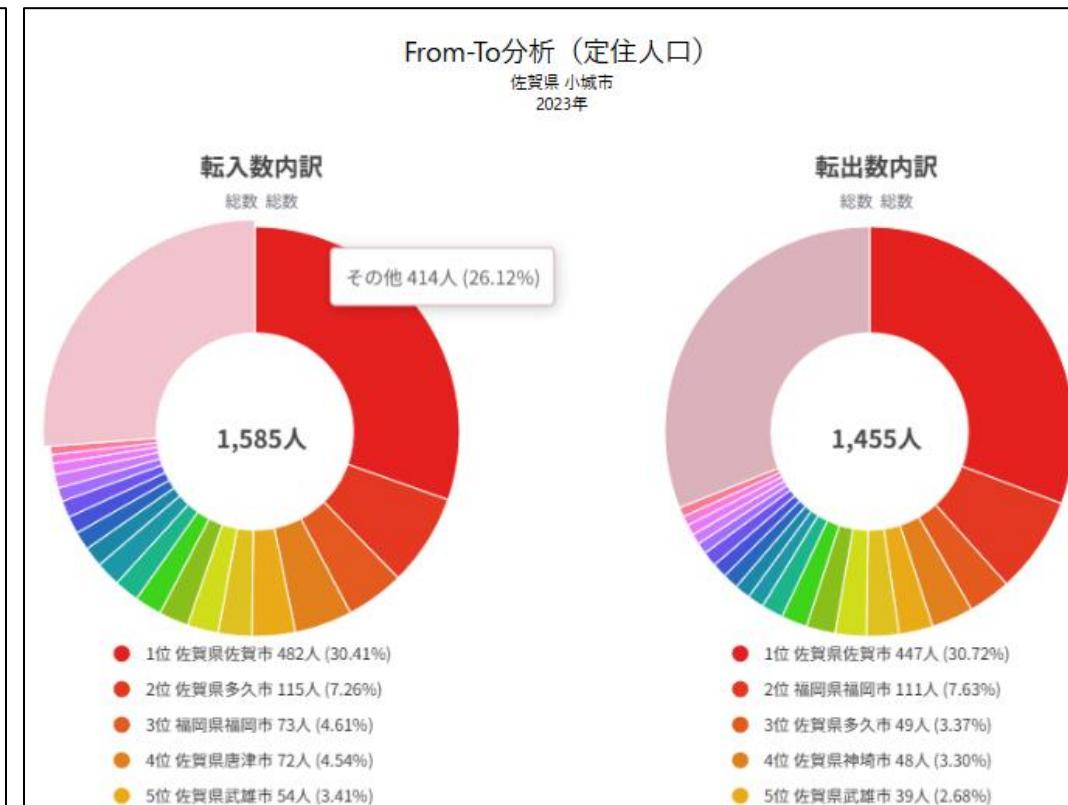
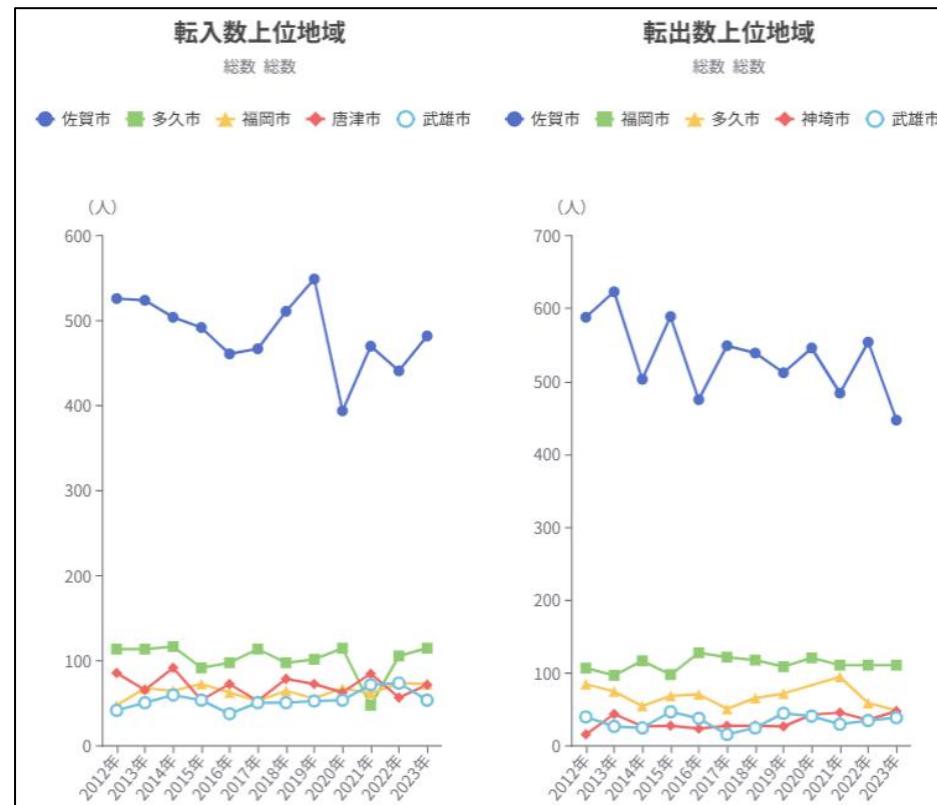
3. 人口マップについて

• 社会増減分析

○転入は佐賀市がもっとも多く次いで多久市、福岡市、唐津市となっている。

○転出は佐賀市がもっと多く、次いで福岡市となっている。

○佐賀市に近くベッドタウンとして転入が多い。一方で転出もほぼ同数となっており、転出抑制に向けた取り組みが重要となってくる。



3. 人口マップについて

・佐賀県の進学者の流入出

○進学ででていく人数が進学で入ってくる人数を大きく上回っており、特に福岡県への流出が多い。

○進学時の県外流出は地元に戻らない恐れも多く、若年層人口を流出を防ぐためにも、佐賀県、小城市においても、県内における就学環境の整備や卒業後に地元企業へ就職が促進するよう働く場所としての受け皿の確保や若年層に向けた就職情報提供の拡充などの取り組みが必要となる。

都道府県間の流入出状況（同地域間を含む）

佐賀県

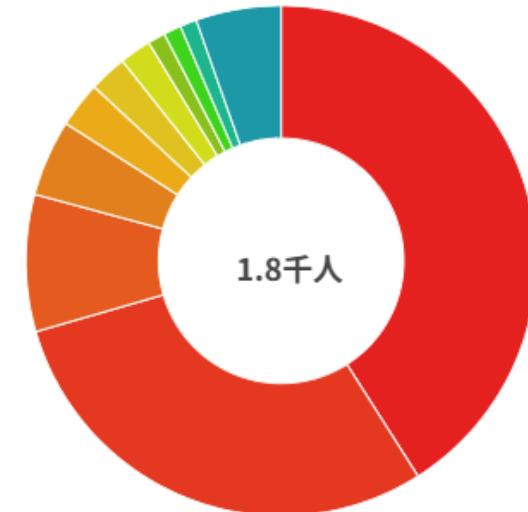
2023年

大学進学

総数

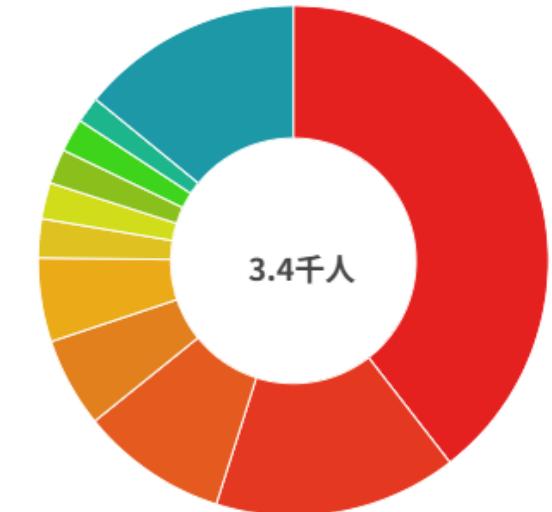
流入進学者

（同地域間を含む）



流出進学者

（同地域間を含む）



3. 人口マップについて

・ 地域間流動

○ 昼間人口を見てみると、日中滞在する人の居住地は「小城市」が 77.59% であり、次いで「佐賀市」が 11.35% となっている。

○ 夜間人口を見てみると、居住する人の日中の滞在地は「佐賀市」が 23.32% であり、佐賀市へ通勤・通学する人が多いことがわかる。

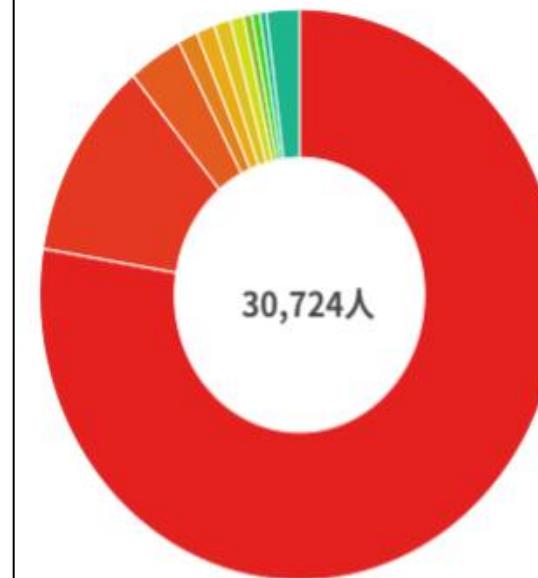
○ 通勤・通学により「昼間の消費」が流出しており、小城市的「働く場所」としての機能強化が今後の重要な課題と考えられる。

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 佐賀県 小城市
昼間人口：30,724人
夜間人口：37,828人
(昼夜間人口比率：81.22%)

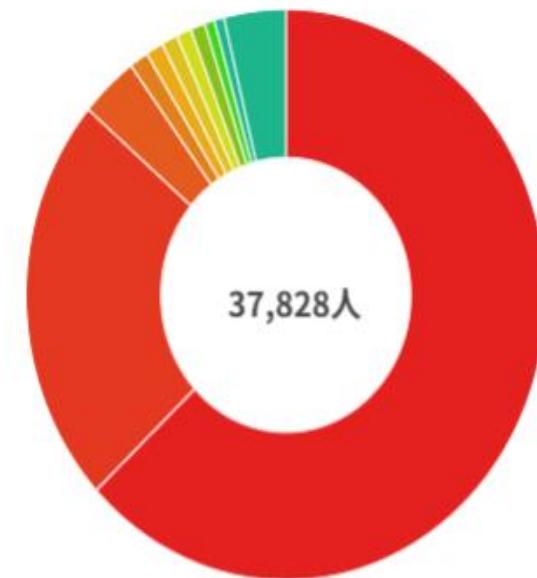
昼間人口

(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口

(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 佐賀県小城市 23,839人 (77.59%)
- 2位 佐賀県佐賀市 3,486人 (11.35%)
- 3位 佐賀県多久市 1,032人 (3.36%)
- 4位 佐賀県白石町 376人 (1.22%)
- 5位 佐賀県江北町 353人 (1.15%)

- 1位 佐賀県小城市 23,839人 (63.02%)
- 2位 佐賀県佐賀市 8,789人 (23.23%)
- 3位 佐賀県多久市 1,355人 (3.58%)
- 4位 佐賀県武雄市 447人 (1.18%)
- 5位 佐賀県神埼市 409人 (1.08%)

4. 産業構造マップ

・産業構成割合

○売上高の構成比を見てみると、製造業の売上構成比は全国・県平均を大きく上回っており、製造業（食品加工・部品製造等）が地域経済を牽引している。

○公共工事等への依存度が高い建設業の売上比率も高く、全国平均の2倍程度となっている。ている。

○一方で卸売業、小売業、運輸業・郵便業は全国・県平均を下回っており、流通関連のウエイトは低くなっている。

○医療・福祉関係は県平均には及ばないが全国平均を上回り、これらの産業への従事者も多い。

○小城市はサービス産業の比率が低く、働く場所としての安定性はあるものの、職種の幅や高付加価値雇用が限られており、若年層の定着に課題がある。

産業構成割合

2021年

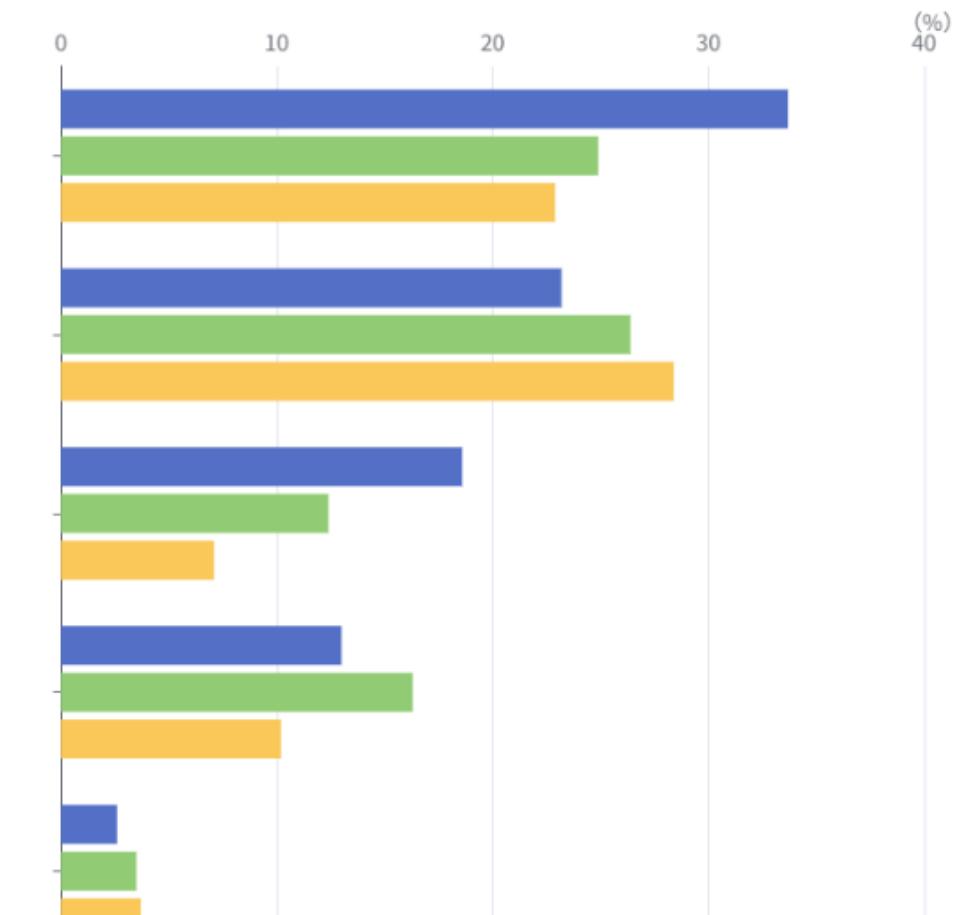
売上高

小城市： 134,026百万円

佐賀県： 4,525,790百万円

全国： 1,693,312,591百万円

小城市 佐賀県 全国



4. 産業構造マップ

・従業者と労働生産性から見る付加価値額

○製造業は労働生産性が605万円/人であり、全国平均に近い生産性を持つ産業であり、従業者数も1,568人、付加価値額も約95億であり小城市的産業の核となっている。

○医療、福祉は従業員数3176人と最も多く雇用の受け皿となっているが労働生産性が低く、賃金水準が上がりにくい状態となっている。

○小城市全体の労働生産性は全国平均より大きく下回っている。そのため賃金が上がりにくく、市外への就業などに繋がっていることが考えられる。

